

基本計画書

基本計画書									
事項	記入欄								備考
計画の区分	研究科の設置								
フリガナ設置者	コクリツダイガクホウジンヨコハマコクリツダイガク 国立大学法人横浜国立大学								
フリガナ大学の名称	ヨコハマコクリツダイガクダイガクイン 横浜国立大学大学院 (Graduate School, Yokohama National University)								
大学本部の位置	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番1号								
大学の目的	横浜国立大学は、教育基本法 の精神にのっとり、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。								
新設学部等の目的	<p>実践的な学術の国際的な拠点をめざしている本学では、建築、都市文化、都市基盤、共生社会など、都市に関わる研究分野をサステイナビリティ（持続可能性）とクリエイティビティ（創造性）という観点から統合・集約させることで、都市の自律的な発展をめざす継続的で多様なイノベーションを生み出さる高度専門職業人（博士課程前期）と、都市のイノベーションについてのグローバルで多彩な視点を備えたリーダーとなるような人材（博士課程後期）を養成するために、都市イノベーション学府を新設する。</p> <p>長期間にわたって有効な都市基盤を支える有機的な共同体を維持するためには、持続可能性（サステイナビリティ）についての工学的な研究と共生社会についての人文科学的な思考が必要になり、そうした共同体に活気溢れる時間を与えるためには、共同体という空間についても、その空間に内容を与える文化的芸術的な側面においても、常に創造性（クリエイティビティ）が不可欠である。本学府では、創造性を備えた持続可能性を志向する都市像の提案を研究の目的としている。</p> <p>そうした人材を育成することで、高齢化・少子化などの社会問題や地球温暖化といった環境問題をかかえ中心部の空洞化に直面し文化・芸術の力で再活性化する方向を選びつつある先進諸国の大規模な成熟都市についてはもとより、都市機能が縮減されつつある中規模、小規模の都市にあっても、あるいは過度とも見える一極集中が見られる新興途上国の大都市においても、実践的で有効な都市のイノベーションを不断に生み出すことで、持続可能な発展と創造性を備えた新たな都市像を提案する。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎とする学部】理工学部 現在の工学部と教育人間科学部地球環境課程、マルチメディア文化課程、国際共生社会課程を廃止し、理工学部を設置予定(平成22年5月申請予定) 14条特例の実施
	都市イノベーション学府 [Graduate School of Urban Innovation] (博士課程前期) 建築都市文化専攻 [Department of Architecture and Urban Culture]	2	68	—	136	修士(工学) 修士(学術)	平成23年4月 第1年次	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号	
	都市地域社会専攻 [Department of Infrastructure and Urban Society]	2	37	—	74	修士(工学) 修士(学術)	平成23年4月 第1年次		
	計		105		210				
	(博士課程後期) 都市イノベーション専攻 [Department of Urban Innovation]	3	12	—	36	博士(工学) 博士(学術)	平成23年4月 第1年次		
計		12		36					

同一設置者内における変更状況(定員の移行、名称の変更等)		大学院教育学研究科 学校教育臨床専攻ほか8専攻を廃止(△130)し、教育実践専攻の設置(100) ※平成23年4月学生募集開始(平成22年4月提出済) 大学院工学府社会空間システム学専攻(△M61人、△D10)を廃止 教育人間科学部 地球環境課程、マルチメディア文化課程、国際共生社会課程を廃止(△230)し、人間文化課程の設置(150) ※平成23年4月学生募集開始(平成22年4月提出済) 工学部を廃止(△665) ※平成23年4月学生募集停止 理工学部設置(745) ※平成23年4月学生募集開始(平成22年5月設置計画書提出)					22年4月大学設置分科会運営委員会に事前相談資料を提出済 教育人間科学部人間文化課程/教育学研究科教育実践専攻(M)		
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				修了要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	都市イノベーション学府								
	(博士課程前期)								
	建築都市文化専攻	46科目	4科目	23科目	73科目	30単位			
都市地域社会専攻	44科目	4科目	17科目	65科目	30単位				
(博士課程後期)									
都市イノベーション専攻	32科目	1科目	3科目	36科目	20単位				
教員	学部等の名称		専任教員等					兼任教員	
			教授	准教授	講師	助教	計		助手
	新設	都市イノベーション学府	人	人	人	人	人	人	
		(博士課程前期)							
		建築都市文化専攻	13 (13)	10 (10)	0 (0)	1 (1)	24 (24)	6 (6)	37 (37)
		都市地域社会専攻	9 (9)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	48 (48)
		(博士課程後期)							
	都市イノベーション専攻	18 (18)	14 (14)	0 (0)	0 (0)	32 (32)	0 (0)	0 (0)	
	計	40 (40)	34 (34)	0 (0)	1 (1)	75 (75)	6 (6)	85 (85)	
	既設	教育学研究科(修士課程)	61	41	6	0	108	0	15
		教育実践専攻	(61)	(41)	(6)	(0)	(108)	(0)	(15)
		国際社会科学研究所(博士課程前期)	13	3	0	0	16	0	6
		経済学専攻	(13)	(3)	(0)	(0)	(16)	(0)	(6)
		国際経済学専攻	10	9	0	0	19	0	5
			(10)	(9)	(0)	(0)	(19)	(0)	(5)
		経営学専攻	16	11	0	0	27	0	2
			(16)	(11)	(0)	(0)	(27)	(0)	(2)
		会計・経営システム専攻	15	8	0	0	23	0	18
			(15)	(8)	(0)	(0)	(23)	(0)	(18)
		国際関係法専攻	7	4	1	0	12	0	25
		(7)	(4)	(1)	(0)	(12)	(0)	(25)	
(博士課程後期)		13	6	1	0	20	0	0	
国際開発専攻		(13)	(6)	(1)	(0)	(20)	(0)	(0)	
グローバル経済専攻		19	6	0	0	25	0	0	
	(19)	(6)	(0)	(0)	(25)	(0)	(0)		
企業システム専攻	27	15	0	0	42	0	0		
	(27)	(15)	(0)	(0)	(42)	(0)	(0)		
国際経済法学専攻	12	7	0	0	19	0	1		
	(12)	(7)	(0)	(0)	(19)	(0)	(1)		
(専門職学位課程)	13	5	0	0	18	0	29		
法曹実務専攻	(13)	(5)	(0)	(0)	(18)	(0)	(29)		
工学府	(博士課程前期)	19	15	3	3	40	0	13	
	機能発現工学専攻	(19)	(15)	(3)	(3)	(40)	(0)	(13)	
	システム統合工学専攻	25	16	3	1	45	0	12	
		(25)	(16)	(3)	(1)	(45)	(0)	(12)	
	物理情報工学専攻	25	19	0	4	48	0	4	
	(25)	(19)	(0)	(4)	(48)	(0)	(4)		
(博士課程後期)	19	15	3	2	39	0	0		
機能発現工学専攻	(19)	(15)	(3)	(2)	(39)	(0)	(0)		
システム統合工学専攻	25	16	2	1	44	0	0		
	(25)	(16)	(2)	(1)	(44)	(0)	(0)		
物理情報工学専攻	25	18	0	2	45	0	1		
	(25)	(18)	(0)	(2)	(45)	(0)	(1)		

平成22年4月大学設置・学校法人審議会大学設置分科会に事前同一書類を提出済

教員組織の概要	既設	環境情報学府(博士課程前期)環境生命学専攻	11 (11)	8 (8)	1 (1)	0 (0)	20 (20)	2 (2)	4 (4)	大学全体
		環境システム学専攻	6 (6)	5 (5)	1 (1)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	1 (1)	
		情報メディア環境学専攻	11 (11)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	3 (3)	
		環境イノベーションマネジメント専攻	7 (7)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	2 (2)	
		環境リスクマネジメント専攻	11 (11)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	1 (1)	5 (5)	
	新設	環境情報学府(博士課程後期)環境生命学専攻	11 (11)	8 (8)	1 (1)	0 (0)	20 (20)	2 (2)	4 (4)	
		環境システム学専攻	6 (6)	5 (5)	1 (1)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	1 (1)	
		情報メディア環境学専攻	11 (11)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	3 (3)	
		環境イノベーションマネジメント専攻	7 (7)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	2 (2)	
		環境リスクマネジメント専攻	11 (11)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	1 (1)	5 (5)	
	分	計	436 (436)	284 (284)	23 (23)	15 (15)	758 (758)	0 (0)	161 (161)	
合計	476 (476)	318 (318)	23 (23)	16 (16)	833 (833)	6 (6)	246 (246)			
教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計	大学全体					
	事務職員	218 (218)	241 (241)	459 (459)						
	技術職員	43 (43)	62 (62)	105 (105)						
	図書館専門職員	8 (8)	0 (0)	8 (8)						
	その他の職員	8 (8)	61 (61)	69 (69)						
計	277 (277)	364 (364)	641 (641)							
校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計					
	校舎敷地	309,872 m ²	— m ²	— m ²	309,872 m ²					
	運動場用地	92,749 m ²	— m ²	— m ²	92,749 m ²					
	小計	402,621 m ²	— m ²	— m ²	402,621 m ²					
	その他	50,969 m ²	— m ²	— m ²	50,969 m ²					
合計	453,590 m ²	— m ²	— m ²	453,590 m ²						
校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計						
	193,370 m ² (193,370 m ²)	— m ² (— m ²)	— m ² (— m ²)	193,370 m ² (193,370 m ²)						
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設					
	116室	192室	566室	21室 (補助職員 4人)	1室 (補助職員 2人)					
専任教員研究室	新設学部等の名称			室数						
	都市イノベーション学府			43室						
図書・設備	新設学部等の名称	図書〔うち外国書〕冊	学術雑誌〔うち外国書〕種	電子ジャーナル〔うち外国書〕種	視聴覚資料点	機械・器具点	標本点	申請学府全体		
	都市イノベーション学府	140,476 [89,701] (126,085 [85,742])	4,985 [2,492] (4,728 [2,382])	(7,877 [7,461])	1,974 (1,974)	63 (63)	0 (0)			
	計	140,476 [89,701] (126,085 [85,742])	4,985 [2,492] (4,728 [2,382])	(7,877 [7,461])	1,974 (1,974)	63 (63)	0 (0)			
図書館	面積	閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体				
	15,285 m ²	1,304 席		1,352,000 冊						
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体					
	3,881 m ²	野球場 テニスコートほか								

経費の 見及び 維持方 法の概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による	
		経費の見積り								
		教員1人当り研究費等								
		共同研究費等								
		図書購入費								
設備購入費										
学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円			
学生納付金以外の維持方法の概要										
大 学 の 名 称 横浜国立大学										
学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
	年	人	年次人	人		倍				
教育人間科学部										
学校教育課程	4	230		920	学士(教育)	1.03	平成10年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号		
地球環境課程	4	50		200	学士(教養)	1.01	平成10年度			
マルチメディア文化課程	4	90		360	学士(教養)	1.03	平成10年度			
国際共生社会課程	4	90		360	学士(教養)	1.03	平成10年度			
経済学部										
経済システム学科	4	115	3年次7	474	学士(経済学)	1.02	昭和24年度 平成16年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番3号		
国際経済学科	4	115	3年次8	476	学士(経済学)	1.02	平成16年度			
経営学部										
経営学科昼間主コース	4	75		300	学士(経営学)	1.05	昭和42年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番4号		
夜間主コース	4	32		128	学士(経営学)	1.16	平成3年度			
会計・情報学科	4	70		280	学士(経営学)	0.94	平成3年度			
経営システム科学科	4	65		260	学士(経営学)	0.94	平成3年度			
国際経営学科	4	65		260	学士(経営学)	1.15	平成3年度			
工学部										
生産工学科	4	140		560	学士(工学)	1.01	昭和24年度 昭和60年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号		
物質工学科	4	160		640	学士(工学)	1.00	昭和60年度			
建設学科	4	130		520	学士(工学)	1.05	昭和60年度			
電子情報工学科	4	145		580	学士(工学)	1.02	昭和60年度			
知能物理工学科	4	90		360	学士(工学)	1.05	平成10年度			
工学部第2部										
生産工学科	5	—		—	学士(工学)	—	昭和24年度 昭和60年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号	平成19年4月学生募集停止	
物質工学科	5	—		—	学士(工学)	—	昭和60年度			
既設大学等の状況	教育学研究科									
学校教育臨床専攻(M)	2	9		18	修士(教育学)	1.72	平成12年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番2号	平成23年4月学生募集停止予定	
学校教育専攻(M)	2	16		32	修士(教育学)	1.24	昭和54年度			
特別支援教育専攻(M)	2	8		16	修士(教育学)	1.12	昭和54年度			
言語文化系教育専攻(M)	2	20		40	修士(教育学)	0.92	平成13年度			
社会系教育専攻(M)	2	15		30	修士(教育学)	0.96	平成13年度			
自然系教育専攻(M)	2	25		50	修士(教育学)	0.72	平成13年度			
生活システム系教育専攻(M)	2	14		28	修士(教育学)	0.71	平成13年度			
健康・スポーツ系教育専攻(M)	2	8		16	修士(教育学)	1.18	平成13年度			
芸術系教育専攻(M)	2	15		30	修士(教育学)	1.23	平成13年度			
国際社会科学部	国際社会科学部									
経済学専攻(M)	2	19		38	修士(経済学、学術)	1.07	平成11年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番4号		
国際経済学専攻(M)	2	17		34	修士(経済学、学術)	0.82	平成11年度			
経営学専攻(M)	2	30		60	修士(経営学、学術)	1.31	平成11年度			
会計・経営システム専攻(M)	2	18		36	修士(経営学、学術)	0.97	平成11年度			
国際関係法専攻(M)	2	24		48	修士(国際経済法学、学術)	0.95	平成11年度			
国際開発専攻(D)	3	7		21	博士(学術)	0.99	平成11年度			
グローバル経済専攻(D)	3	9		27	博士(経済学、学術)	0.88	平成11年度			
企業システム専攻(D)	3	12		36	博士(経営学、学術)	1.10	平成11年度			
国際経済法学専攻(D)	3	7		21	博士(国際経済法学、学術)	0.71	平成11年度			
法曹実務専攻(P)	3	40		140	法務博士(専門職)	1.01	平成16年度		平成22年度定員減[△10]	

工学府												
機能発現工学専攻(M)	2	87	174	修士(工学、学術)	1.15	平成13年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番5号	平成23年4月学生募集停止予定(社会空間システム学専攻M/D)				
システム統合工学専攻(M)	2	88	122	修士(工学、学術)	1.27	平成13年度						
社会空間システム学専攻(M)	2	61	176	修士(工学、学術)	1.13	平成13年度						
物理情報工学専攻(M)	2	107	214	修士(工学、学術)	1.36	平成13年度						
機能発現工学専攻(D)	3	12	36	博士(工学、学術)	1.19	平成13年度						
システム統合工学専攻(D)	3	13	39	博士(工学、学術)	0.66	平成13年度						
社会空間システム学専攻(D)	3	10	30	博士(工学、学術)	0.73	平成13年度						
物理情報工学専攻(D)	3	16	48	博士(工学、学術)	0.87	平成13年度						
環境情報学府												
環境生命科学専攻(M)	2	33	66	修士(環境学、工学、学術)	1.24	平成13年度	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79番7号					
環境システム学専攻(M)	2	40	80	修士(環境学、工学、学術)	1.16	平成13年度						
情報メディア環境学専攻(M)	2	35	70	修士(環境学、工学、学術)	1.44	平成13年度						
環境イノベーションマネジメント専攻(M)	2	10	20	修士(環境学、技術経営、学術)	1.10	平成18年度						
環境リスクマネジメント専攻(M)	2	28	56	修士(環境学、工学、学術)	1.03	平成18年度						
環境生命科学専攻(D)	3	15	45	博士(環境学、工学、学術)	0.64	平成13年度						
環境システム学専攻(D)	3	16	48	博士(環境学、工学、学術)	0.37	平成13年度						
情報メディア環境学専攻(D)	3	15	45	博士(環境学、工学、学術)	0.37	平成13年度						
環境イノベーションマネジメント専攻(D)	3	5	15	博士(環境学、技術経営、学術)	1.60	平成18年度						
環境リスクマネジメント専攻(D)	3	9	27	博士(環境学、工学、学術)	1.29	平成18年度						
附属施設の概要	<p>○保健管理センター(目的)学生・教職員の健康保持・増進に寄与する(所在地)横浜市保土ヶ谷区常盤台79-1(設置年月)昭和48年4月(規模等)建物499㎡</p> <p>○R Iセンター(目的)放射性同位元素(R I)を使用した研究及び教育を遂行する(所在地)横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5(設置年月)昭和54年7月(規模等)建物304㎡</p> <p>○共同研究推進センター(目的)民間等外部の機関との研究協力を推進し、社会における研究開発と産業技術の創生に資するとともに、本学における研究及び教育の活性化を図る(所在地)横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5(設置年月)平成3年4月(規模等)建物2,041㎡</p> <p>○留学生センター(目的)外国人留学生に対する日本語及び日本事情に関する教育、学部入学前予備教育を必要とする者に対する日本語教育及び専門基礎科目補講、前者及び海外留学を希望する学生に対し、関係各部局等と協力し、修学上及び生活上の指導助言を行う。(所在地)横浜市保土ヶ谷区常盤台79-1(設置年月)平成4年4月(規模等)建物1,526㎡</p> <p>○情報基盤センター(目的)情報基盤の整備充実を図るために、情報基盤技術に関する研究を推進し、教育、研究及び事務処理等における情報基盤の利用、活用を支援する。(所在地)横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5(設置年月)平成19年4月(総合情報処理センター改組)(規模等)建物1,988㎡</p> <p>○大学教育総合センター(目的)大学教育に関する調査、研究及び入学者選抜方法の検討を行い、その改善を図るとともに、体系的な全学教育の企画及び実施を推進する(所在地)横浜市保土ヶ谷区常盤台79-1(設置年月)平成15年4月(規模等)面積240㎡</p> <p>○機器分析評価センター(目的)研究用大型機器及び精密機器等を集中的に管理し、教育・研究の用に供するとともに、各研究用機器等の利用を合理的、効率的に行う(所在地)横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5(設置年月)平成7年4月(規模等)建物1,435㎡</p> <p>○ベンチャービジネス・ラボラトリー(目的)大学院において、エコテクノロジー並びにシステムに関し、ベンチャー・ビジネスの萌芽となるべき独創的な研究開発を推進するとともに、高度の専門的職業能力を持つ創造的な人材を育成する(所在地)横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5(設置年月)平成8年9月(規模等)建物1,512㎡</p> <p>○安心・安全の科学研究教育センター(目的)大学院修士課程及び博士課程の学生に對する安心・安全な社会の構築のための人材育成を目的とした教育、社会人に対し、安心・安全科学の再教育、安心・安全の科学の研究開発に関することを行う。(所在地)横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5(設置年月)平成16年6月(規模等)面積377㎡</p> <p>○未来情報通信医療社会基盤センター(目的)独立行政法人情報通信研究機構及びその他の機関と連携した先端情報通信技術に基づく未来社会基盤(高度医療、福祉、金融、エネルギー、交通)の高度研究開発、本学大学院生又はこれと同等以上の知識を持つ研究者等に対する先端研究を通じた高度教育に関することを行う(所在地)横浜市保土ヶ谷区常盤台79-7(設置年月)平成17年9月(規模等)面積327㎡</p> <p>○地域実践教育研究センター(目的)地域連携推進室との緊密な連携をもとに、学部及び大学院の学生に対し、地域交流科目を中心に、グローバルな視野をもって地域課題を解決できる21世紀人材育成を目的とした教育の推進、内外の諸機関・諸地域と連携しながら、地域貢献に関する教育・研究・実践活動を行い、前記の業務に関し、広く情報発信することにより社会に貢献する。(所在地)横浜市保土ヶ谷区常盤台79-3(設置年月)平成17年9月(規模等)面積20㎡</p>											

○統合的海洋教育研究センター（目的）海洋の統合的管理能力の修得を目的にした修士課程の教育、海洋の統合的管理に関する国際的、領域横断的な教育・研究情報の拠点の形成、その他、本学における海洋の統合的教育研究の促進を行う。（所在地）横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5（設置年月）平成19年6月（規模等）面積117㎡

○企業成長戦略研究センター（目的）企業成長に基づく経済成長戦略に関する研究、本学大学院生又はこれと同等以上の知識を持つ研究者等に対する研究を通じた教育、企業成長に基づく経済成長戦略に係る産官学ネットワーク及び国際共同研究ネットワークの構築、その他、本学における企業成長に基づく経済成長戦略の研究推進に関し必要なことを行う。（所在地）横浜市保土ヶ谷区常盤台79-4（設置年月）平成19年6月（規模等）面積79㎡

○学際プロジェクト研究センター（目的）科学技術振興調整費による若手研究者の自立的な研究環境整備促進事業に基づく、特任教員（助教）を受け入れ、本事業によりテニユア・トラック制の助教制度を確立し、広い視野と教育資質を十分に備え、世界に通用する研究を遂行できる若手研究者・教員及び学際プロジェクト研究参加を通して、「実践的学術の拠点」形成の一翼を担うことができる人材を育成する。（所在地）横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5（設置年月）平成19年7月（規模等）建物575㎡

○大岡インターナショナルレジデンス（目的）外国人留学生、外国人研究者、教職員を寄宿させ、かつ、国際交流の促進に資する（所在地）横浜市南区大岡2-31-2（設置年月）平成22年8月予定（規模等）建物8,500㎡（大岡国際交流会館廃止）

○留学生会館（目的）外国人留学生を寄宿させ、かつ、国際交流の促進に資することを（所在地）横浜市横浜南区大岡2-31-2（設置年月）昭和55年12月（規模等）建物5,009㎡

○大会館（目的）本学の学生・教職員の人間関係の緊密化を図るとともに、学生・教職員の福利厚生に寄与し、学園生活を豊かにする。（所在地）横浜市保土ヶ谷区常盤台79-1（設置年月）昭和63年9月（規模等）建物3,094㎡

○峰沢国際交流会館（目的）本学の学生に対し、生活と勉学の場を与え、その修学を容易にするとともに、国際交流の促進に資する。（所在地）横浜市保土ヶ谷区峰沢町305-11（設置年月）平成4年5月（規模等）建物7,260㎡

○教育文化ホール（目的）地域の方々に対する生涯学習に関する事業等を実施する。（所在地）横浜市保土ヶ谷区常盤台79-1（設置年月）平成7年4月（規模等）建物1,512㎡

○インキュベーション施設（目的）大学のシーズを活かしたベンチャーを起業する場を提供する。（所在地）横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5（設置年月）平成16年3月（規模等）建物1,058㎡

教育課程等の概要																
(都市イノベーション学府博士課程前期建築都市文化専攻)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	技術系	建築構造性能論	1・2後	2		○			2	1					オムニバス	
		都市の地盤防災と地盤環境	1・2後	2		○								兼1	共同	
	環境系	グリーンビルディング建築学	1・2前	2		○								兼2	共同	
		地域・都市環境計画論	1・2前	2		○			1	1				兼1	オムニバス	
	デザイン系	環境心理学	1・2前	2		○			1					兼1	オムニバス	
		横浜建築都市学S	1・2前	2		○			4					兼3	共同	
		横浜建築都市学F	1・2後	2		○			4					兼3	共同	
		都市と芸術S	1・2前	2		○			1	1				兼1	オムニバス	
		都市と芸術F	1・2後	2		○			1	1				兼1	選択必修 オムニバス	
		地域共生系	都市基盤と地域開発	1・2前	2		○								兼1	
			地域研究と異文化理解S	1・2前	2		○								兼4	オムニバス
	地域研究と異文化理解F		1・2後	2		○								兼4	オムニバス	
	都市経営系	都市社会と地域	1・2後	2		○								兼2	オムニバス	
		都市居住環境論	1・2後	2		○			1	1					オムニバス	
		都市イノベーションと起業	1・2前	2		○			1					兼2	共同	
		都市マネジメント	1・2後	2		○								兼1		
			国際地域協力論	1・2前	2		○							兼1		
小計（17科目）		—	0	34	0	—		11	5	0	0	0	兼22			
実践教育科目	技術系	建築構造工学スタジオ	1・2前後	4		○			3				1		共同	
		地域性を考慮した都市基盤施設の耐震耐久性設計スタジオ	1・2前後	4		○								兼2	共同	
	環境系	水圏の防災環境計画スタジオ	1・2前後	4		○								兼2	共同	
		地盤防災と地盤環境マネジメントスタジオ	1・2前後	4		○								兼2	共同	
	デザイン系	建築理論スタジオ	1・2前後	4		○			2		1	2			共同	
		次世代環境創造デザインスタジオ	1・2前後	6		○			1							
		次世代環境空間制御デザインスタジオ	1・2前後	6		○			1							
		都市再生デザインスタジオ	1・2前後	6		○			1							
		地域再生デザインスタジオ	1・2前後	6		○			1						選択必修	
		現代アートスタジオ	1・2前後	4		○			1	1					共同	
		文芸メディア創作スタジオ	1・2前後	4		○			1					兼1	共同	
	地域共生系	音響空間スタジオ	1・2前後	4		○			1							
		映像芸術スタジオ	1・2前後	4		○			1					兼1	共同	
		集積都市域の防災マネジメントと社会基盤メンテナンススタジオ	1・2前後	4		○								兼3	共同	
		欧米都市文化研究スタジオ	1・2前後	4		○								兼5	共同	
	都市経営系	アジア・途上地域研究スタジオ	1・2前後	4		○								兼5	共同	
		環境都市デザインスタジオ	1・2前後	4		○			2			3		兼1	共同	
都市と交通の連携方策と地域計画スタジオ		1・2前後	4		○								兼2	共同		
小計（18科目）		—	0	80	0	—		7	9	0	1	6	兼24			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
実践教育科目	インターンシップ科目 技術系 環境系 デザイン系 都市経営系	インターンシップ（構造設計）	1・2前後	4				○	2	3					兼1	共同	
		インターンシップ（設備設計）	1・2前後	4				○	1	2						兼1	共同
		インターンシップ（建築計画）	1・2前後	4					○	3	3						共同
		インターンシップ（Y-GSA）	1・2前後	6					○	4						兼1	共同
		インターンシップ（都市イノベーションと起業）	1・2前後	4					○	1						兼2	共同
		小計（5科目）	—	0	22	0			—	10	8	0	0	0		兼3	
専門教育科目	講義科目 建築系 都市文化系	構造物基礎工学	1・2前	2			○								兼1		
		建築耐震設計論	1・2前	2			○		1								
		建築耐震改修論	1・2前	2					1								
		構造物弾塑性解析論	1・2前	2			○			1							
		建築応用振動論	1・2前	2			○			1							
		大空間建築構造論	1・2後	2			○			1							
		建築温熱環境論	1・2前	2			○			1							
		地域・都市環境管理論	1・2後	2			○			1							
		地域省エネルギー計画論	1・2後	2			○			1							
		環境行動論	1・2前	2			○			1							
		持続型集住論	1・2前	2			○				1						
		建築維持活用論	1・2前	2			○					1					
		西洋・近代建築史論	1・2前	2			○			1							
		日本建築保存修復論	1・2前	2			○				1						
		日本・東洋美術論	1・2後	2			○									兼1	
		近代美術論	1・2前	2			○									兼1	
		市街地創造論	1・2後	2			○			1							
		都市デザイン論	1・2後	2			○				1						
		Y-GSA インディペンデント・スタジオ	1・2前後	2			○			4							共同※実習
		Y-GSA ワークショップA（理論）	1・2前	2			○			4						兼1	共同※実習
		Y-GSA ワークショップB（実践）	1・2前	2			○			4						兼1	共同※実習
		比較文化論	1・2前	2			○									兼1	
		都市文芸論	1・2前	2			○				1						
		都市音響論	1・2後	2			○			1							
		Y-GSC ワークショップ	1・2後	2			○			3	2					兼2	共同※実習
		アーバンアート論A	1・2前	2			○			1							
		アーバンアート論B	1・2前	2			○				1						
		映像芸術論A	1・2前	2			○									兼1	
		映像芸術論B	1・2後	2			○			1							
小計（29科目）	—	0	58	0			—	13	10	0	1	0		兼6			
演習科目	特別演習	建築都市文化特別演習ⅠS	1前	※	2			○	9	10	0	1				※建築都市文化	
		建築都市文化特別演習ⅠF	1後	※	2			○	9	10	0	1				コースに	
		建築都市文化特別演習ⅡS	2前	※	2			○	9	10	0	1					においては
		建築都市文化特別演習ⅡF	2後	※	2			○	9	10	0	1					必修
		小計（4科目）	—	0	8	0			—	9	10	0	1	0		兼0	
合計（73科目）		—	0	202	0			—	13	10	0	1	6		兼37		
学位又は称号	修士（工学）、修士（学術）		学位又は学科の分野				工学関係、美術関係										

修了要件及び履修方法		授業期間等		
<p>(建築都市文化専攻)</p> <p>建築都市文化専攻に育成人材像に合わせ、建築都市文化コースと必修科目であるスタジオ科目の履修を重視したスタジオ方式教育プログラムとして建築都市デザインコース (Y-GSA)と横浜都市文化コース (Y-GSC)を設ける。</p> <p>【修了要件】</p> <p>博士課程前期に2年以上在学し、次の履修方法により定められた授業科目を履修し、30単位以上を修得し、修了に関わる授業科目のGPA2.0以上であり、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士の学位論文審査に建築都市文化コースでは修士論文を提出し、建築都市デザインコースと横浜都市文化コースでは、ポートフォリオ(スタジオでの成果物をまとめたもの)を提出し合格すること。</p> <p>【建築都市文化コース】</p> <p>[履修方法]</p> <p>授業科目30単位以上を履修し、修了に関わる授業科目のGPA2.0以上であり、必要な研究指導を受けて修士論文を提出する。</p> <p>なお、授業科目の履修にあたっては、次の条件を満たすものとする。</p> <p>共通科目 6単位以上</p> <p>(5つに分類された共通科目(技術系、環境系、デザイン系、地域共生系、都市経営系)のうち、3つの科目区分から各1科目を含む3科目以上を履修)</p>		1学年の学期区分	2学期	
		1学期の授業期間	15週	
		1時限の授業時間	90分	
技術系	環境系	デザイン系	地域共生系	都市経営系
建築構造性能論	グリーンビルディング建築学	環境心理学 横浜建築都市学S	都市基盤と地域開発	都市居住環境論 都市マネジメント
都市の地盤防災と地盤環境	地域・都市環境計画論	横浜建築都市学F 都市と芸術S 都市と芸術F	地域研究と異文化理解S 地域研究と異文化理解F 都市社会と地域	都市イノベーションと起業 国際地域協力論
実践教育科目 スタジオ科目 インターシップ科目		4単位以上 4単位必修	(1科目以上を履修) (スタジオ科目の内1つはインターシップ科目に置き換える)	
専門教育科目		16単位以上		
講義科目		8単位以上		
演習科目		8単位必修		
<p>[学位の種類] 修士(工学)または修士(学術)</p> <p>取得予定学位に応じて次の専門教育科目を履修する。</p> <p>・修士(工学)の認定を受ける場合: 博士課程前期学位認定基準に基づき修士(工学)認定用基幹専門教育科目(講義科目、演習科目)を12単位以上修得、かつ、修士(学術)認定用基幹専門教育科目(講義科目)を4単位以上修得。</p> <p>・修士(学術)の認定を受ける場合: 博士課程前期学位認定基準に基づき修士(学術)認定用基幹専門教育科目(講義科目、演習科目)を12単位以上修得、かつ修士(工学)認定用基幹専門教育科目(講義科目)を4単位以上修得。</p>				
修士(工学)認定用基幹専門教育科目		修士(学術)認定用基幹専門教育科目		
建築系 (講義科目) 建築耐震設計論、建築耐震改修論 構造物弾塑性解析論、建築応用振動論 大空間建築構造論 建築温熱環境論 地域・都市環境管理論 地域省エネルギー計画論 環境行動論、持続型集住論 建築維持活用論、西洋・近代建築史論 日本建築保存修復論 市街地創造論、都市デザイン論 (演習科目) 建築都市文化特別演習 I S、I F、II S、II F		都市文化系 (講義科目) 比較文化論、都市文芸論 都市音響論 Y-GSC ワークショップ アーバンアート論A、アーバンアート論B 映像芸術論A、映像芸術論B (演習科目) 建築都市文化特別演習 I S、I F、II S、II F		

<p>【スタジオ方式教育プログラム履修方法】 高度な実務家を養成するため、スタジオ科目に履修上の重み付けを行うスタジオ方式教育プログラムを設定し、国際的標準に対応する次世代建築家養成に特化した建築都市デザインコースと先端的な諸芸術のクリエイター・メディエーター養成に特化した横浜都市文化コースを設け、それぞれ修了要件の設定を行っている。</p>				
<p>●建築都市デザインコース (Y-GSA) [履修方法] 授業科目30単位以上を履修し、修了に関わる授業科目のGPA2.0以上であり、ポートフォリオ(スタジオ科目での成果物をまとめたもの)を提出する。 なお、授業科目の履修に当たっては、次の条件を満たすものとする。 30単位に加え、更にY-GSAスタジオ関連科目より10単位を修得する場合、副専攻プログラム(Y-GSA建築都市デザイン)修了を認定する。</p> <p>共通科目 6単位以上 (5つに分類された共通科目(技術系、環境系、デザイン系、地域共生系、都市経営系)のうち、3つの科目区分から各1科目を含む3科目以上を履修)</p>				
技術系	環境系	デザイン系	地域共生系	都市経営系
建築構造性能論	グリーンビルディング建築学	環境心理学 横浜建築都市学S	都市基盤と地域開発	都市居住環境論 都市マネジメント
都市の地盤防災と地盤環境	地域・都市環境計画論	横浜建築都市学F 都市と芸術S 都市と芸術F	地域研究と異文化理解S 地域研究と異文化理解F 都市社会と地域	都市イノベーションと起業 国際地域協力論
<p>実践教育科目 24単位以上 スタジオ科目 24単位必修 4科目(1科目6単位)を必修とする ※スタジオ科目の内1つはインターンシップ科目に置き換えできる。ただし、同時に2つのスタジオ、また同時にスタジオとインターンシップを履修することはできない。 [学位の種類] 修士(工学)</p> <p><建築都市デザインコース(Y-GSA)のポートフォリオ審査> 1) 審査委員会(主査1名、副査2名)による学位審査の対象とする。 2) 建築におけるポートフォリオとは、自らの作品をまとめたブックレットで、本人の作品能力をプレゼンテーションするものをいう。Y-GSAで必修とする4スタジオ(このうち1つはインターンシップに置き換えられる)の成果について合否判定を受け単位修得した後、4つスタジオの成果をひとつの通底する論にまとめたものとする。 世界のどこの建築系教育機関または建築設計事務所においても、入所を希望する場合はこの本人のポートフォリオによる審査が必須である。ここで製作された各自のポートフォリオは本人の進学、就職に使用されるものとなる。</p> <p><建築都市デザインコース(Y-GSAスタジオ科目に関連する科目)> 1. 行政や民間企業からの依頼を受け、地域の街づくりに根ざした実施プロジェクトを行うY-GSAインディペンデント・スタジオ。 2. 夏季休暇中毎年実施する2つのワークショップ(Y-GSAワークショップA(理論)とB(実践))。 3. Y-GSAが開講する2つの都市イノベーション学府共通科目(横浜建築都市学SとF) 4. 建築理論(AT)、都市環境(UE)、構造技術(SE)に関する建築系専門科目 5. 都市イノベーション学府前期共通科目</p>				
<p>●横浜都市文化コース (Y-GSC) [履修方法] 授業科目30単位以上を履修し、修了に関わる授業科目のGPA2.0以上であり、ポートフォリオ(スタジオ科目での成果物をまとめたもの)を提出する。 なお、授業科目の履修に当たっては、次の条件を満たすものとする。</p> <p>共通科目 6単位以上 (5つに分類された共通科目(技術系、環境系、デザイン系、地域共生系、都市経営系)のうち、3つの科目区分から各1科目を含む3科目以上を履修)</p>				

技術系	環境系	デザイン系	地域共生系	都市経営系
建築構造性能論 都市の地盤防災と地盤環境	グリーンビルディング建築学 地域・都市環境計画論	環境心理学 横浜建築都市学S 横浜建築都市学F 都市と芸術S 都市と芸術F	都市基盤と地域開発 地域研究と異文化理解S 地域研究と異文化理解F 都市社会と地域	都市居住環境論 都市マネジメント 都市イノベーションと起業 国際地域協力論
<p>実践教育科目 8単位以上 スタジオ科目 8単位必修 2科目(1科目4単位)を必修とする ※スタジオ科目内の1つはインターンシップ科目に置き換えできる。ただし、同時に2つのスタジオ、また同時にスタジオとインターンシップを履修することはできない。</p> <p>専門教育科目 8単位以上 講義科目 8単位以上</p> <p>【学位の種類】修士(学術) <横浜都市文化コース Y-GSCのポートフォリオ審査> 1) 審査委員会(主査1名、副査2名)による学位審査の対象とする。 2) スタジオ科目の成果をもとに各自の視座から作品・活動記録等を編集し、各自の論考を統合したものとする。 例えば、現代アートスタジオの成果をもとに、展覧会の企画・運営の活動記録や作家へのインタビュー、そして現代アートをめぐる各自の論考、各自の制作した作品記録などを編集し、ポートフォリオとしてまとめる。あるいは、文芸メディア創作スタジオの成果をもとに、各自の執筆した小説や批評、そしてスタジオで制作した冊子やウェブの記録などを再編集し、ポートフォリオとしてまとめることが考えられる。</p> <p>【スタジオ科目履修条件】 (インターンシップはスタジオ科目の一つとして認定、無印は履修可、一印は履修不可)</p>				
スタジオ科目名	建築都市文化コース	建築都市デザインコース(Y-GSA)	横浜都市文化コース(Y-GSC)	
	下記○印スタジオ科目より1科目以上必修	下記○印スタジオ科目の4科目必修	下記○印スタジオ科目より2科目以上必修	
建築構造工学スタジオ	○			
地域性を考慮した都市基盤施設の耐震耐久性設計スタジオ	○			
水圏の防災環境計画スタジオ	○			
地盤防災と地盤環境マネジメントスタジオ	○			
建築理論スタジオ	○			
次世代環境創造デザインスタジオ	—	○	—	
次世代環境空間制御デザインスタジオ	—	○	—	
都市再生デザインスタジオ	—	○	—	
地域再生デザインスタジオ	—	○	—	
現代アートスタジオ	○		○	
文芸メディア創作スタジオ	○		○	
音響空間スタジオ	○		○	
映像芸術スタジオ	○		○	

集積都市域の防災マネジメントと社会基盤メンテナンススタジオ	○			
欧米都市文化研究スタジオ	○			
アジア・途上地域研究スタジオ	○			
環境都市デザインスタジオ	○			
都市と交通の連携方策と地域計画スタジオ	○			
インターンシップ（構造設計）	○	—	—	
インターンシップ（設備設計）	○	—	—	
インターンシップ（建築計画）	○	—	—	
インターンシップ（Y-GSA）	—	○	—	
インターンシップ（都市イノベーションと起業）	○			

教 育 課 程 等 の 概 要

(都市イノベーション学府博士課程前期都市地域社会専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	技術系	建築構造性能論	1・2後	2			○								兼3	オムニバス
		都市の地盤防災と地盤環境	1・2後	2			○		1							
	環境系	グリーンビルディング建築学	1・2前	2			○								兼2	共同
		地域・都市環境計画論	1・2前	2			○								兼2	オムニバス
	デザイン系	環境心理学	1・2前	2			○								兼2	オムニバス
		横浜建築都市学S	1・2前	2			○								兼7	共同
		横浜建築都市学F	1・2後	2			○								兼7	共同
		都市と芸術S	1・2前	2			○								兼3	オムニバス
		都市と芸術F	1・2後	2			○								兼3	選択必修 オムニバス
	地域共生系	都市基盤と地域開発	1・2前	2			○		1							
		地域研究と異文化理解S	1・2前	2			○		1	2					兼1	オムニバス
		地域研究と異文化理解F	1・2後	2			○		1	2					兼1	オムニバス
		都市社会と地域	1・2後	2			○		1	1						オムニバス
	都市経営系	都市居住環境論	1・2後	2			○								兼2	オムニバス
		都市イノベーションと起業	1・2前	2			○								兼3	共同
		都市マネジメント	1・2後	2			○								兼1	
		国際地域協力論	1・2前	2			○								兼1	
	小計（17科目）	—	0	34	0	—		4	4	0	0	0	0	兼30		
実践教育科目	技術系	建築構造工学スタジオ	1・2前後	4			○								兼3	共同
		地域性を考慮した都市基盤施設の耐震耐久性設計スタジオ	1・2前後	4			○		1	1						共同
	環境系	水圏の防災環境計画スタジオ	1・2前後	4			○		1	1						共同
		地盤防災と地盤環境マネジメントスタジオ	1・2前後	4			○		1	1						共同
	デザイン系	建築理論スタジオ	1・2前後	4			○								兼3	共同
		現代アートスタジオ	1・2前後	4			○								兼2	共同
		文芸メディア創作スタジオ	1・2前後	4			○								兼2	共同
		音響空間スタジオ	1・2前後	4			○								兼1	
		映像芸術スタジオ	1・2前後	4			○								兼2	共同
	地域共生系	集積都市域の防災マネジメントと社会基盤メンテナンススタジオ	1・2前後	4			○		2	1						共同
		欧米都市文化研究スタジオ	1・2前後	4			○			2					兼3	共同 選択必修
	都市経営系	アジア・途上地域研究スタジオ	1・2前後	4			○		2	2					兼1	共同
	環境都市デザインスタジオ	1・2前後	4			○								兼3	共同	
	都市と交通の連携方策と地域計画スタジオ	1・2前後	4			○		1	1						共同	
	小計（14科目）	—	0	56	0	—		8	9	0	0	0	0	兼20		
インターンシップ科目	技術系	インターンシップ（都市基盤）	1・2前後	4			○		6	5						共同
	地域共生系	インターンシップ（異文化交流）	1・2前後	4			○		2	4					兼3	共同
	都市経営系	インターンシップ（都市イノベーションと起業）	1・2前後	4			○								兼3	共同
	小計（3科目）	—	0	12	0	—		8	9	0	0	0	0	兼6		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門教育科目	講義科目 都市基盤系	都市基盤安全設計学	1・2前	2		○			1									
		都市基盤環境相関学	1・2前	2		○			1									
		耐震耐久設計学	1・2前	2		○				1								
		地盤設計学	1・2前	2		○				1								
		コンクリート工学論	1・2後	2		○										兼1		
		都市防災システム論	1・2前	2		○				1								
		都市基盤構造材料学	1・2前	2		○					1					兼1		オムニバス
		水圏環境論	1・2前	2		○				1								
		水圏防災論	1・2後	2		○					1							
		地盤環境工学論	1・2後	2		○										兼1		
		耐震工学論	1・2前	2		○										兼1		
		交通計画学	1・2後	2		○					1							
		維持管理計画学	1・2後	2		○				1	2							共同
		都市水循環論	1・2前	2		○										兼2		オムニバス
	都市基盤政策論	1・2後	2		○				1									
	国際法総論	1・2前	2		○										兼1			
	開発経済論	1・2後	2		○										兼1			
	国際都市基盤プロジェクト論	1・2後	2		○										兼1			
	地域社会系	国際支援政策論	1・2後	2		○				1								
		地域コミュニケーション論	1・2後	2		○					1							
		文化交流論	1・2後	2		○									兼1			
		途上地域発展論	1・2前	2		○					1				兼1		オムニバス	
		現代社会文化論A	1・2前	2		○					2						オムニバス	
		現代社会文化論B	1・2後	2		○									兼2		オムニバス	
		アジア社会文化論	1・2前	2		○				1	1						オムニバス	
		アジア社会経済論	1・2前	2		○				1								
		グローバル都市論	1・2前	2		○				1	1							オムニバス
小計（27科目）		—	0	54	0	—	—	—	8	10	0	0	0	兼13				
演習科目	特別演習	都市地域社会特別演習 I S	1前	2			○		9	10								
		都市地域社会特別演習 I F	1後	2			○		9	10								
		都市地域社会特別演習 II S	2前	2			○		9	10								
		都市地域社会特別演習 II F	2後	2			○		9	10								
	小計（4科目）	—	8	0	0	—	—	—	9	10	0	0	0	兼0				
合計（65科目）			—	8	156	0	—	—	9	10	0	0	0	兼48				
学位又は称号		修士（工学）、修士（学術）		学位又は学科の分野			工学関係、社会学関係、文学関係											
修了要件及び履修方法										授業期間等								
<p>（都市地域社会専攻）</p> <p>都市地域社会専攻に育成人材像に合わせ、都市地域社会コースと必修科目であるスタジオ科目の履修を重視したスタジオ科目方式教育プログラムとして国際基盤学コース（IGSI）を設ける。</p> <p>【修了要件】</p> <p>博士課程前期に2年以上在学し、次の履修方法により定められた授業科目を履修し、30単位以上を修得し、修了に関わる授業科目のGPA2.0以上であり、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士の学位論文審査に都市地域社会コース、国際基盤学コースとも修士論文を提出し合格すること。</p> <p>【都市地域社会コース】</p> <p>[履修方法]</p> <p>授業科目30単位以上を履修し、修了に関わる授業科目のGPA2.0以上であり、必要な研究指導を受けて修士論文を提出する。</p> <p>なお、授業科目の履修にあたっては、次の条件を満たすものとする。</p> <p>共通科目 6単位以上</p> <p>（5つに分類された共通科目（技術系、環境系、デザイン系、地域共生系、都市経営系）のうち、3つの科目区分から各1科目を含む3科目以上を履修）</p>										1学年の学期区分		2学期						
										1学期の授業期間		15週						
										1時限の授業時間		90分						

技術系	環境系	デザイン系	地域共生系	都市経営系
建築構造性能論 都市の地盤防災と地盤環境	グリーンビルディング建築学 地域・都市環境計画論	環境心理学 横浜建築都市学S 横浜建築都市学F 都市と芸術S 都市と芸術F	都市基盤と地域開発 地域研究と異文化理解S 地域研究と異文化理解F 都市社会と地域	都市居住環境論 都市マネジメント 都市イノベーションと起業 国際地域協力論
実践教育科目 スタジオ科目 インターンシップ科目		4単位以上 4単位必修 (1科目以上を履修) (スタジオ科目の内1つはインターンシップ科目に置き換える)		
専門教育科目 講義科目 演習科目		16単位以上 8単位以上 8単位必修		
<p>【学位の種類】修士(工学)または修士(学術)</p> <p>取得予定学位に応じて次の専門教育科目を履修する。</p> <p>・修士(工学)の認定を受ける場合：博士課程前期学位認定基準に基づき修士(工学)認定用基幹専門教育科目(講義科目、演習科目)を12単位以上修得、かつ、修士(学術)認定用基幹専門教育科目(講義科目)を4単位以上修得。</p> <p>・修士(学術)の認定を受ける場合：博士課程前期学位認定基準に基づき修士(学術)認定用基幹専門教育科目(講義科目、演習科目)を12単位以上修得、かつ修士(工学)認定用基幹専門教育科目(講義科目)を4単位以上修得。</p>				
修士(工学)認定用基幹専門教育科目		修士(学術)認定用基幹専門教育科目		
都市基盤系 (講義科目) 都市基盤安全設計学、都市基盤環境相関学 耐震耐久設計学、地盤設計学 都市防災システム論、都市基盤構造材料学 水圏環境論、水圏防災論 交通計画学、維持管理計画学 都市基盤政策論 国際法総論 開発経済論 (演習科目) 都市地域社会特別演習I S、I F、II S、II F		地域社会系 (講義科目) 現代社会文化論A、現代社会文化論B アジア社会文化論、アジア社会経済論 文化交流論、途上地域発展論 地域コミュニケーション論 国際支援政策論 グローバル都市論 (演習科目) 都市地域社会特別演習I S、I F、II S、II F		
<p>【スタジオ方式教育プログラム：国際基盤学コース(IGSI)】</p> <p>新興国・開発途上国での活躍を念頭においた国際的な視野に立った高度な土木工学技術者養成を目的とし、スタジオ科目に履修上の重み付けを行うスタジオ方式教育プログラムを設定し、全ての科目を英語で実施する国際基盤学コースを用意する。</p> <p>●国際基盤学コース(IGSI)</p> <p>[履修方法]</p> <p>授業科目30単位以上を履修し、修了に関わる授業科目のGPA2.0以上であり、必要な研究指導を受けて修士論文を提出する。</p> <p>なお、授業科目の履修にあたっては、次の条件を満たすものとする。</p> <p>共通科目 6単位以上</p> <p>(5つに分類された共通科目(技術系、環境系、デザイン系、地域共生系、都市経営系)のうち、3つの科目区分から各1科目を含む3科目以上を履修)</p>				
技術系	環境系	デザイン系	地域共生系	都市経営系
建築構造性能論 都市の地盤防災と地盤環境	グリーンビルディング建築学 地域・都市環境計画論	環境心理学 横浜建築都市学S 横浜建築都市学F 都市と芸術S 都市と芸術F	都市基盤と地域開発 地域研究と異文化理解S 地域研究と異文化理解F 都市社会と地域	都市居住環境論 都市マネジメント 都市イノベーションと起業 国際地域協力論
実践教育科目 スタジオ科目		8単位以上 8単位必修 (2科目(1科目4単位)以上を履修)		
<p>※スタジオ科目の内1つはインターンシップ科目に置き換ええる。ただし、同時に2つのスタジオ、また同時にスタジオとインターンシップを履修することはできない。</p>				

専門教育科目 16単位以上
 講義科目 8単位以上
 演習科目 8単位必修
 <英語対応科目>
 共通科目
 都市の地盤防災と地盤環境、都市基盤と地域開発、国際地域協力論
 スタジオ科目
 地域性を考慮した都市基盤施設の耐震耐久性設計スタジオ
 水圏の防災環境計画スタジオ
 地盤防災と地盤環境マネジメントスタジオ
 集積都市域の防災マネジメントと社会基盤メンテナンススタジオ
 都市と交通の連携方策と地域計画スタジオ
 専門教育科目（講義科目）
 都市基盤安全設計学、都市基盤環境相関学、耐震耐久性設計学、地盤設計学、
 都市防災システム論、都市基盤構造材料学、水圏環境論、水圏防災論、
 交通計画学、維持管理計画学、都市基盤政策論、
 地域コミュニケーション論、国際支援政策論、グローバル都市論
 専門教育科目（演習科目）
 都市地域社会特別演習ⅠS、都市地域社会特別演習ⅠF
 都市地域社会特別演習ⅡS、都市地域社会特別演習ⅡF
 [学位の種類] 修士（工学）
 【スタジオ科目履修条件】
 （インターンシップはスタジオ科目の一つとして認定、一印は履修不可）

スタジオ科目名	都市地域社会 コース	国際基盤学コース (IGSI)
	下記○印スタジオ 科目より1科 目以上必修	下記○印スタジオ科 目の2科目以上必修
建築構造工学スタジオ	○	—
地域性を考慮した都市基 盤施設の耐震耐久性設計 スタジオ	○	○
水圏の防災環境計画スタジオ	○	○
地盤防災と地盤環境マネ ジメントスタジオ	○	○
建築理論スタジオ	○	—
現代アートスタジオ	○	—
文芸メディア創作スタジオ	○	—
音響空間スタジオ	○	—
映像芸術スタジオ	○	—
集積都市域の防災マネジ メントと社会基盤メイン テナンススタジオ	○	○
欧米都市文化研究スタジオ	○	—
アジア・途上地域研究スタジ オ	○	—
環境都市デザインスタジオ	○	—
都市と交通の連携方策と 地域計画スタジオ	○	○
インターンシップ（都市基 盤）	○	—
インターンシップ（異文化交 流）	○	—
インターンシップ（都市イノ ベーションと起業）	○	—

教 育 課 程 等 の 概 要

(都市イノベーション学府博士課程後期都市イノベーション専攻)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
実践 科目	都市イノベーション実践A（企業等 実践研修）	1・2・3 前後		4				○	18	14					} 選択 必修
	都市イノベーション実践B（教育研 究研修）	1・2・3 前後		4				○	18	14					
	都市イノベーション実践C（プロ ジェクト実践研修）	1・2・3 前後		4				○	18	14					
	小計（3科目）	—	0	12	0	—			18	14	0	0	0	兼0	
特論 科目	建築系	建築耐震設計特論	1・2・3 前	2				○	1						
		建築耐震改修特論	1・2・3 前	2				○	1						
		構造物弾塑性解析特論	1・2・3 前	2					○	1					
		建築応用振動特論	1・2・3 後	2					○	1					
		大空間建築構造特論	1・2・3 後	2					○	1					
		建築温熱環境特論	1・2・3 後	2					○	1					
		地域・都市環境管理特論	1・2・3 前	2					○	1					
		地域省エネルギー計画特論	1・2・3 前	2					○	1					
		環境行動特論	1・2・3 後	2					○	1					
		持続型集住特論	1・2・3 後	2					○	1					
		日本建築保存修復特論	1・2・3 前	2					○	1					
		市街地創造特論	1・2・3 前	2					○	1					
		建築デザイン特論	1・2・3 後	2					○	1					
		都市デザイン特論	1・2・3 後	2					○	1					
		都市 基盤系	都市基盤安全設計特論	1・2・3 前	2					○	1				
	都市基盤環境相関特論		1・2・3 後	2					○	1					
	耐震耐久設計特論		1・2・3 前	2					○	1					
	地盤設計特論		1・2・3 後	2					○	1					
	都市防災システム特論		1・2・3 前	2					○	1					
	都市基盤構造材料特論		1・2・3 後	2					○	1					
	水圏環境特論		1・2・3 後	2					○	1					
	水圏防災特論		1・2・3 前	2					○	1					
	地圏特論		1・2・3 前	2					○	1					
	交通計画特論		1・2・3 前	2					○	1					
	都市基盤政策特論	1・2・3 後	2					○	1						
	都市 文化系	都市音響特論	1・2・3 後	2					○	1					
		アーバンアート特論	1・2・3 後	2					○	1					
映像芸術特論		1・2・3 前	2					○	1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
特論科目 地域社会系	国際支援政策特論	1・2・3前		2		○			1						
	地域コミュニケーション特論	1・2・3後		2		○				1					
	アジア社会文化特論	1・2・3前		2		○			1						
	アジア社会経済特論	1・2・3前		2		○			1						
	小計（32科目）	—	0	64	0	—	—	—	18	14	0	0	0	兼0	
特別研究	特別研究	1・2・3前後	6	0			○		18	13					
	小計（1科目）	—	6	0	0	—	—	—	18	13	0	0	0		
合計（36科目）			—	6	76	0	—	—	18	14	0	0	0	兼0	
学位又は称号	博士（工学）、博士（学術）		学位又は学科の分野			工学関係、美術関係、文学関係									
修了要件及び履修方法						授業期間等									
【修了要件】 博士課程後期に3年以上在学し、次の履修方法により定められた授業科目を履修し、20単位以上を修得し、修了に関わる授業科目のGPA2.0以上であり、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士の学位論文に合格することとする。ただし、学府教授会が認めるときは、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、大学院に3年以上（博士課程後期に1年以上）在学すれば足りるものとする。 【履修方法】 授業科目の履修にあたっては、次の基準を満たすものとする。 実践科目 8単位以上 特論科目 6単位以上 取得予定学位に応じて次の特論科目を履修する。 博士（工学）の認定を受ける場合：博士課程後期学位認定基準に基づき博士（工学）認定用基幹特論科目を4単位以上修得、かつ博士（学術）認定用基幹特論科目を2単位以上修得。 博士（学術）の認定を受ける場合：博士課程後期学位認定基準に基づき博士（学術）認定用基幹特論科目を4単位以上修得、かつ博士（工学）認定用基幹特論科目を2単位以上修得。						1学年の学期区分		2学期							
						1学期の授業期間		15週							
						1時限の授業時間		90分							
博士（工学）認定用基幹特論科目			博士（学術）認定用基幹特論科目												
建築系特論科目			都市文化系特論科目												
建築耐震設計特論、建築耐震改修特論 構造物弾塑性解析特論、建築応用振動特論 大空間建築構造特論、 建築温熱環境特論 地域・都市環境管理特論、 地域省エネルギー計画特論 環境行動特論、持続型集住特論 日本建築保存修復特論、市街地創造特論 建築デザイン特論、都市デザイン特論			アーバンアート特論、映像芸術特論 都市音響特論 地域社会系特論科目 アジア社会文化特論、アジア社会経済特論 地域コミュニケーション特論 国際支援政策特論												

都市基盤系特論科目		
都市基盤安全設計特論 都市基盤環境相關特論、耐震耐久設計特論 地盤設計特論、都市防災システム特論 都市基盤構造材料特論、水圏環境特論 水圏防災特論、地圏特論、交通計画特論、 都市基盤政策特論		
特別研究 6単位必修		

授業科目の概要

（都市イノベーション学府博士課程前期建築都市文化専攻）

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	技術系 建築構造性能論	概要: 建築の構造に要求される性能を評価するための基本的な限界状態（機能性、修復性、安全性）を明確にした上で、荷重・外力の種類とその強さのレベルを区分し、各構造システムが如何にその構造性能を発揮し得るかについて判定する手法学ぶ。具体的には、性能規定化された建築基準法と指定建築材料、耐久性等関連規定と政令で定める技術基準、荷重・外力の規定と許容応力度等計算、限界耐力計算と等価質量・代表変位、エネルギー法による耐震設計と鉄骨構造の性能、鉄筋コンクリート造建物に関する限界状態と構造性能、鉄筋コンクリート造建物の耐震性能評価法等について順次体系的に講じる。 (オムニバス方式/全15回) (3田川 泰久/6回)耐震性能全般 (9田才 晃/6回)鉄筋コンクリート造の性能評価 (1) 松本 由香/3回)制度・基準面	オムニバス方式
	都市の地盤防災と地盤環境	概要: アジアの都市の多くは平坦な沖積平野の河口付近に立地し、その表層地盤は軟弱である。また、急激な人口増加や社会の変化に対応するために、埋立て・造成による地形改変、河川の改修・付替え・暗渠化、地下水の汲み上げ、管路の埋設やトンネル・地下街・各種の産業インフラの建設、廃棄物の処分・投棄などの行為が表層地盤に対して行われてきた。そのため、ゼロメートル地帯に象徴される自然災害への脆弱性、工場跡地の土壌汚染、進まない廃棄物処分施設の建設、大深度法を適用する地下空間開発など、大都市に特有な地盤工学的課題が多い。この講義では、これらの課題やそれに関わる研究・技術開発について学習する。	
環境系	グリーンビルディング建築学	概要: 地域活動や建築物が環境負荷に及ぼす影響を、環境物理量、エネルギー消費等から明らかにし、さらなる環境負荷の削減に向けて、都市、地域、建築物における対策案の評価、教育研究を行なう。建物単独の省エネルギーシステムだけでなく、建築と都市、都市と自然とのエネルギー収支などもマクロな視点で扱い、地球環境負荷軽減に関しての知識を獲得し、関連する建築、都市、地域における諸活動に理解を深める。 (大野茂) 建物について、熱源・空調計画法、省エネルギー計画技術と評価技術についての解説を主に担当する。 (深尾仁) 建物、地域の環境負荷の評価手法と経済的な見地からの環境評価尺度の解説を主に担当する。	共同方式
	地域・都市環境計画論	概要: 建築に加えて、地域、都市といった空間は、人間の生活、活動にとって安全、快適、健康的で、便利であるとともに、生態系などの自然環境にとっても負荷の小さいものでなければ持続可能性は実現できない。本講義では、このような視点に立って、建築環境工学（建築計画原論）的アプローチ、都市計画的アプローチ、自然環境・生態学的アプローチで建築及びその外部空間を含めた地域や都市の環境計画の方法論について学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (6 佐土原聡/7回) 自然環境・生態学的アプローチ (23 吉田 聡/8回) 建築環境工学（建築計画原論）的アプローチ、都市計画的アプローチ	オムニバス方式
デザイン系	環境心理学	概要: 環境心理学の諸理論や調査手法に関する基礎的知識を習得した上で、具体的な研究事例として、評価グリッド法の適用例（丸山講師）、高齢者施設空間研究や子どもの空間認知に関する調査研究例（大原）について講義にて紹介した後、討議・考察を行い、演習課題の実施を交えることにより、環境デザイン、建築学分野、建築計画分野において環境心理学を適用する具体的方法や、研究への応用方法について学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (3大原一興/8回)オリエンテーション、および後半の講義と演習 (丸山 玄/7回)前半の講義と演習	オムニバス方式
	横浜建築都市学S	概要: 本講座は、建築と都市の未来はどこに向かうべきかを考えるために、「建築」と「都市」を相互に関連づけながら議論していくことを目的としている。建築、社会学、都市デザインといった分野から専門家を招聘し、講義を行なう授業である。建築講座・都市講座の2シリーズを、月1回ずつ開催する。 (小嶋一浩、北山恒、飯田善彦、西沢立衛) 建築講座を主に担当する。 (小林重敬)、(鈴木伸治)主に都市講座を担当する。 (寺田真理子)両講座の企画・マネジメントを主に担当する。	共同方式
	横浜建築都市学F	概要: 本講座は、建築と都市の未来はどこに向かうべきかを考えるために、「建築」と「都市」を相互に関連づけながら議論していくことを目的としている。建築、社会学、都市デザインといった分野から専門家を招聘し、講義を行なう授業である。建築講座・都市講座の2シリーズを、月1回ずつ開催する。FはSを踏まえた応用的なテーマを扱う。 (小嶋一浩、北山恒、飯田善彦、西沢立衛) 建築講座を主に担当する。 (小林重敬、鈴木伸治)主に都市講座を担当する。 (寺田真理子)両講座の企画・マネジメントを主に担当する。	共同方式

授業科目の概要			
（都市イノベーション学府博士課程前期建築都市文化専攻）			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	都市と芸術S	<p>概要:映画を中心にした映像、映画を中心にした歴史的な考察、諸芸術を重層させた展示の方法等、現代の都市における芸術の諸相を解説する。対談形式によって、それぞれの時代を画する映画作家の作品について、どのように論じるべきかを実践的に示すことによって、問題の所在を明らかにする。</p> <p>（オムニバス方式／全15回） (2梅本洋一／3回) 映画の上映形式について。 (19彦江智弘／4回) 映画の歴史について。 (平倉圭／4回) 映画と他の諸芸術の関係について。 (2梅本洋一、19彦江智弘、平倉圭／4回) 全員によるディスカッションおよび2人による対談等をおこなう。</p>	オムニバス方式
	都市と芸術F	<p>概要:現代芸術と諸理論を紹介し、比較文化的な見地からその実際について解説し、現代芸術における身体の問題を解説する。また包括的な文化理論・文化哲学的な考察、都市文化が孕む消費社会との深い関わり、写真やサブカルチャーなどの諸表象に含まれている無意識的な欲望の解説など、都市に浮かび上がる文明のさまざまな光と影を具体的な事例を通して読み解いて行く。授業は講義形式のみならず、ディスカッション、グループ作業などを通して、インタラクティブに行っていく。</p> <p>（オムニバス方式／全15回） (10室井尚／4回) 文化理論的考察。 (清田友則／4回) サブカルチャー系。 (16樽沼範久／4回) 身体の問題。 (10室井尚、清田友則、16樽沼範久／3回) ディスカッション。</p>	オムニバス方式
地域共生系	都市基盤と地域開発	<p>都市基盤施設および地域開発にかかる諸問題の歴史的経緯、現在の課題、そして内外の先進的な事例の考察と評価を学ぶ。特に都市交通にかかる施設を例題として、欧州、北米、南米、アジアでのここ30年程度の実践例を豊富に紹介し、これからの政策立案、計画立案と推進、技術支援に必要な、ものの考え方を学ぶ。あわせて、政策の枠組みという点で、地球環境問題、人口問題、経済変動問題、モータリゼーションなどのキーワードと地域開発、都市基盤整備の関係も取り上げ、実践的な研究課題の設定方法や取り組み方法を身につける上での基礎的素養を修得する。</p>	
	地域研究と異文化理解S	<p>概要:各担当者がフィールドとする地域の研究課題と研究成果を題材としながら、それぞれの地域研究の接近方法とその違い、学問的な関心のあり方、そしてその地域を理解し研究することが、われわれにとってどのようなことを意味するのか、を他分野、他地域の専攻者に関心を共有しようという概説する。各担当者の研究領域である社会経済史（朝鮮）、社会文化史（北米）、比較経済思想論（日本・中国）、社会思想史（ロシア）のそれぞれにかんして、オムニバス形式で進める。</p> <p>（オムニバス方式／全15回） (34須川英徳、47松原宏之、49千 臣、大須賀史和／2回) 課題の設定 (47松原宏之／3回) 北米の社会文化史から考察する。 (34須川英徳／3回) 朝鮮の社会と経済を歴史的に考察する。 (大須賀史和／3回) ロシア社会思想を事例に取り上げる。 (49千 臣／3回) 日中比較経済思想の見方を紹介する。 (34須川英徳、47松原宏之、49千 臣、大須賀史和／1回) まとめ</p>	オムニバス方式
	地域研究と異文化理解F	<p>概要:各担当者がフィールドとする地域の研究課題と研究成果を題材としながら、それぞれの地域研究の接近方法とその違い、学問的な関心のあり方、そしてその地域を理解し研究することが、われわれにとってどのようなことを意味するのか、を他分野、他地域の専攻者に関心を共有しようという概説する。各担当者の研究領域であるジェンダー論（中国）、文化人類学（アフリカ）、国際社会学（東南アジア）、社会文化論（フランス）のそれぞれにかんしてオムニバス形式で進める。</p> <p>（オムニバス方式／全15回） (33白水紀子、41小ヶ谷千穂、44長谷川秀樹、松本尚之／2回) 課題の設定 (33白水紀子／3回) 東アジアジェンダー論の立場から考察する。 (松本尚之／3回) 文化人類学で見るアフリカ。 (44長谷川秀樹／3回) 現代フランス社会の事例から考察する。 (41小ヶ谷千穂／3回) 現代東南アジア社会の事例を紹介する。 (33白水紀子、41小ヶ谷千穂、44長谷川秀樹、松本尚之／1回) まとめ</p>	オムニバス方式

授業科目の概要				
（都市イノベーション学府博士課程前期建築都市文化専攻）				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通科目	地域共生系	都市が発展、成長するということは、その社会および地域における変化とともに進行してきたことなのか。この講義では、前近代から近代、そして現代という大きな社会変化を経験してきた北東アジア（主として韓国）、東南アジアを対象として、都市の機能や目的の変化を時間軸のなかで把握するとともに歴史学、社会学の視点から考察し、基礎的な素養と知識を習得する。 （オムニバス方式/全15回） ②須川英徳、①小ヶ谷千穂/1回）イントロダクション ②須川英徳/8回）韓国の歴史的経験から、都市の変容と成長について考察する。 ①小ヶ谷千穂/4回）現代東南アジアの事例から、人々の移動を軸として社会的に考察する。 ②須川英徳、①小ヶ谷千穂/2回）総括と総合討論	オムニバス方式	
	都市経営系	概要：都市居住環境に関する評価方法および政策課題等について基礎的学習を行なった後、実際の大都市圏内に複数のスタディー地区を設定して現地調査を含めた実践的調査を行ない報告。討議の中から相互比較、評価方法の問題点、居住環境改善に向けた方策等を学ぶ。さらに大都市圏を対象とし指標をベースとして計画管理を行なっている事例をとりあげ、計画管理手法、個々の指標設定の適切さ、指標の組み合わせの適切さ等につき学ぶ。 （オムニバス方式/全15回） ⑦高見沢実/7回）大都市圏を対象とする指標による計画管理 ⑮野原卓/8回）大都市圏内の地区をベースとした居住環境評価	オムニバス方式	
	都市経営系	概要：本講義は、ベンチャーマインドを持った人材養成をめざした新しい大学院教育を目指している。そこでまず、都市イノベーションと起業に伴う問題について、ベンチャー起業や企業経営に関して民間の第一線で活躍しているエキスパートの方々に講義していただく。続いて、受講者数名ごとにチームをつくり、実際のベンチャー企業を訪問し直接起業家社長に対してヒアリング調査を行う。その後、更にアイデアを出し合いビジネスプランをまとめて上げるクリエイティブな作業を行なう。最後は講師陣を前にした講習会での発表を行なう。 （高見沢実）都市イノベーションの観点から企画調整および講義の管理を担当する。 （志茂武）ベンチャー企業と起業論全般および講義運営を担当する。 （田村明弘）都市イノベーション人材論全般および講義運営を担当する。	共同方式	
都市経営系	都市マネジメント	都市の持続可能な発展のためには、地域の特性にマッチした活力ある産業の発展が必要である。本講義では、都市作りが建設業や不動産業、あるいは設計会社のみでなされているわけではなく、その中で都市に住む人達の食の提供を提供する各種産業が支え、都市を形作っていることへの理解をまず深める。又、都市は単に管理をしていけばよい、と言うわけではなく、都市マネジメントの視点が、今後は特に必要である。時代にマッチした活性化された産業群をどう形作っていくか、又その地域の特有の歴史・文化・人材・技術を熟知しつつそれを根底においた市民・地域の活性化をどう推進していくのか、あるいは、公共と民間の新たなパートナーシップのあり方等、トータルな都市経営に関する今日的な課題、ならびに第一線で活躍する講師による事例紹介を通じて、都市のマネジメントについての基本的な考え方を養う。		
	国際地域協力論	開発途上国に共通する社会経済的特徴を熟知した上で、今日の開発途上国が直面する地域課題、貧困、分配の不平等、失業、人口増加、環境保全、累積債務などの国内的及び国際的諸問題へのアプローチと分析方法を学習することにより、開発途上国に対する経済開発及び制度構築のあり方を理論的に考察する。開発協力は幅広い学際的領域であり、本授業を受講することにより、個別の領域についての多角的アプローチが可能となる。		
実践教育科目	技術系	建築構造工学スタジオ	概要：建築構造工学に関する実践的なプロジェクトや課題を通して、構造技術者としての素養を高めることを目標としたスタジオとする。先ず鉄骨構造、RC構造、ドーム・空間構造、など、材料種別や構造形式に応じて問題点を整理する。次に、現象の解明や定量的な評価、対策の立案等を目的として、実験計画を立て、建物のモデル化・解析などを実施する。これらのプロセスを通じて、構造計画・構造設計・施工計画において必要な知識を学び、問題解決能力や工学的な判断力を養う。 （河端昌也）特に建築構法の視点から実践的な能力を修得する。 （松本由香）特に鉄骨構造の視点から実践的な能力を修得する。 （楠 浩一）特にRC構造の視点から実践的な能力を修得する。	共同方式

授業科目の概要

(都市イノベーション学府博士課程前期建築都市文化専攻)

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実践教育科目	技術系 スタジオ科目 地域性を考慮した都市基盤施設の耐震耐久性設計スタジオ	概要:都市基盤を構成する構造物として広く用いられている鉄筋コンクリート構造物とプレストレストコンクリート構造物を対象として、それらの耐震性と耐久性をテーマとした設計・演習および関連の講義を履修する。構造物の耐震設計条件および耐久設計条件には、構造物が設置される地域の地盤条件や環境条件が主要な影響要因となるため、それらの影響要因を関連の設計図書に基づき考慮する。耐震性および耐久性に関する具体的問題についての課題を通して、必要な知識を学び、問題解決能力および工学的判断力を養う。 (椿 龍哉)都市基盤を構成するコンクリート構造物を対象として、その耐震性と耐久性の向上のための設計技術に関して、解析、実験を通して学ぶ。 (細田 暁)都市基盤を構成するコンクリート構造物を対象として、その耐震性と耐久性の向上のための維持管理技術に関して、解析、実験を通して学ぶ。	共同方式
	環境系 水圏の防災環境計画スタジオ	概要:世界の沿岸域、湖沼貯水池、河川から上下水道まで、水に関わる事象を対象とし、防災や環境に関わる、具体的な解決すべき題材を設定する。設定された題材について、現地調査、室内実験、資料の収集と解析、インタビュー、コンピュータシミュレーション等の手法を適宜採用し、題材として採り上げた課題の背景と現状の問題点の把握、および解決への道筋について検討し、課題解決策の提案や、必要となる研究課題の抽出を行う。通常の実習作業に加え、月に1回進捗状況に関するプレゼンテーションを行い、さらに最終レポートと最終プレゼンテーションを課す。 (佐々木 淳)現地調査およびコンピュータシミュレーションを主な手法として、環境系の分野を重点的に扱う。 (鈴木 崇之)現地調査および室内実験を主な手法として、防災系の分野を主に扱う。	共同方式
	地盤防災と地盤環境マネジメントスタジオ	概要:地盤防災ないし地盤環境に関わるある設定された具体的なテーマについてプロジェクトを遂行する。課題の探索、文献調査・調査・試験・計測などによる情報の収集・分析、報告書の作成などを通じて、シビルエンジニアとしても必要なコンピテンシー(課題解決能力・業務遂行能力・コミュニケーション力など)を身につける。進捗状況について適宜、報告・連絡・相談を行いながら作業を進める。取りまとめた内容についてレポートを作成し、プレゼンテーションを行う。 (谷 和夫)地盤防災ないし地盤環境に関わるテーマにおいて、特に岩盤工学や地盤調査技術の向上に関するプロジェクトを遂行する。 (早野 公敏)地盤防災ないし地盤環境に関わるテーマにおいて、特に地盤改良技術の向上に関するプロジェクトを遂行する。	共同方式
デザイン系	建築理論スタジオ	概要:建築理論スタジオは、建築史や建築計画の視点を軸に、持続可能な人間社会創造に向けてどのような理論と実践技術が提案可能かを考える。スタジオは、主に大都市横浜・川崎市緑辺部を中心に神奈川県下をフィールドとし、具体的各プロジェクト実践を通して行う。この地域は豊かな自然が残り歴史的ストックも多いエリアであるが、常に都市スプロールの影響にさらされるエリアでもある。各プロジェクトはフィールドワークを軸に、住民、NPO、行政、建築専門家、等々の様々な主体との協働作業を通じて、これらの課題に触れ、問題解決モデルを具体的な提案にまとめ上げる。フィールドワークの成果は逐次現場に還元して検証して新たな展開に結びつける。 (大野 敏)特に建築史の視点から実践的な能力を修得する。 (藤岡泰寛)特に建築計画の視点から実践的な能力を修得する。 (江口 亨)特に建築ストックの視点から実践的な能力を修得する。	共同方式
	次世代環境創造デザインスタジオ	本スタジオでは、新時代の都市・建築のモデルを研究する。新しい時代の人間の生き方について考え、社会について考えて、これからの時代の価値観をダイナミックに表すような、新しい時代の建築を目指す。通常の実習スタジオでは、都市というものを与条件とした上で建築を計画するのが主だが、西沢スタジオでは、都市と建築の両方を同時に計画するものとする。また、横浜という既存の都市、歴史を背景とした建築・都市研究とする。	
	次世代環境空間制御デザインスタジオ	本スタジオでは、大きな地球という環境システムのなかでどのように都市は定義されるのか、またその都市を構成する単位要素である建築はどのように定義されるのかを検証する。そして、人間の諸活動に対応する空間装置として建築、都市を再定義してみたい。未だこの世界に存在していないがこの世界が要求する「新しい建築」を環境に対応する空間装置として構想する。	
	都市再生デザインスタジオ	本スタジオでは、横浜という都市の都心部と郊外の双方をプロジェクトサイトとする。そこに、場所の帰属感を生む装置として環境単位というハードウェアを計画してみようと考えている。環境単位とは、建築より大きく、しかし都市ではない。巨大建築ではなく、地域社会という広がりでもない。それは、その場所を経験すると明確な場所のアイデンティティが感じられる何かである。実態としての空間であり、実態のないシステムでもある。そんな環境単位を開発する。	

授業科目の概要			
（都市イノベーション学府博士課程前期建築都市文化専攻）			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実践教育科目	デザイン系 地域再生デザインスタジオ	本スタジオでは、「地域」を取り上げる。つまり、身近な現実世界を見ることから始める。地域に入り、フィールドワークを試みながら、これからの建築の可能性を探っていく。ノンフィクショナルな世界に先んじて、建築を生み出すためのフィクショナルなストーリーを発見的に導き出すことが課題である。	
	現代アートスタジオ	概要：現代アートに関する理解を前提に、近年の傾向について整理し、そうした傾向を踏まえた上で、新たな展示の方法を考察しながら、実際に企画・運営を行う。（室井尚）と（樽沼範久）が完全なコラボレーション形式で担当する。	共同方式
	文芸メディア創作スタジオ	概要：批評を中心にした実際のクリエイティブライティングから出発し、それらがどのように編集され、一冊にまとめられていくかを考察し、実際に、ウェブ、雑誌等のメディアにまとめていく。編集作業、執筆作業等を実践しながら、現代的な文芸メディアのあり方を考察していく。（清田友則）と（彦江智弘）が完全なコラボレーション形式で担当する。	共同方式
	音響空間スタジオ	コンサートホール、ライブスペース等、都市における多彩な音楽空間の考察から出発し、それらの音響空間において、どのような活動が適切かを学び、実際の空間を立案し、コンサート、ライブ等を行う。受講者は各種ホール、教会、オペラ劇場等、様々な建築空間での演奏、上演、パフォーマンス等を見学、鑑賞する。さらに実際にこれらに参加し響きの創出そのものを体験するのが望ましい。また時代様式やライブ形態、演奏形態等に応じた残響やステージ形状などの体験、研究から映像、照明等との統合、さらにはコンサートマネジメントでの扱い方に至るまで、理論と実践を連携させ広く実践的に学ぶ。	
	映像芸術スタジオ	概要：都市における映像作品上映スペースの実地見学によって、そうしたスペースでの上映作品のプログラミングを実践的に学び、地域のニーズを考察した上で、上映形式を提案し、実際に作品選定と上映活動を行う。（梅本洋一）は主に上映形式とプログラムについて担当し、（平倉圭）は、実践的な作品製作について担当する。	共同方式
地域共生系	集積都市域の防災マネジメントと社会基盤メンテナンススタジオ	概要：高度に集積発達した都市社会においては、社会基盤構造物を強風、地震などの自然の脅威に対しても安全に供用させるとともに、長寿命化を目指した予防保全的な維持管理が求められる。本スタジオでは、橋梁を始めとする社会基盤構造物を対象として、強風、地震の作用に対する応答予測技術、応答制御技術などの防災マネジメント、さらには長寿命化のためのメンテナンス技術等に関して、解析や実験を行うとともに得られた成果について指導教員との議論を通して、実践的に学ぶ。 （山田均）橋梁など社会基盤構造物を対象として、強風、地震の作用に対する応答制御技術に関して、解析、実験を通して学ぶ。 （勝地弘）橋梁など社会基盤構造物を対象として、強風、地震の作用に対する応答予測技術に関して、解析、実験を通して学ぶ。 （佐々木栄一）橋梁など社会基盤構造物を対象として、長寿命化のためのメンテナンス技術に関して、解析、実験を通して学ぶ。	共同方式
	欧米都市文化研究スタジオ	概要：成熟した社会である欧米を対象に、都市はどのように生長し、成熟してきたのか、多文化共生をはじめとする具体的なテーマを設定して、文献調査および資料収集、フィールドワーク、分析と報告書作成を行う。それらの作業を通じて、必要な人文社会科学的な調査能力と分析能力、コミュニケーション能力を実践的に養う。	共同方式
	アジア・途上地域研究スタジオ	概要：急速に成長する都市を抱えたアジアをはじめとする諸地域を対象に、都市とその地域が抱える諸問題はなにか、具体的なテーマを設定して、文献調査および資料収集、フィールドワーク、分析と報告書作成を行う。それらの作業を通じて、必要とされる人文社会科学的な調査能力と分析能力、コミュニケーション能力を実践的に養う。 （白水紀子）中国の社会文化にかんして文献調査と分析について指導する。 （小ヶ谷千穂）東南アジアにかんして社会学的なアプローチと分析手法を指導する。 （須川英徳）韓国にかんして歴史学的方法によるアプローチと分析について指導する。 （于 臣）思想史の観点から指導する。 （松本尚之）アフリカについて文化人類学の観点からのアプローチと分析について指導する。いずれも必要な文献・資料・史料理解のための読解能力も養う。	共同方式

授業科目の概要			
（都市イノベーション学府博士課程前期建築都市文化専攻）			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実践教育科目	都市経営系 スタジオ科目 環境都市デザインスタジオ	概要: サステイナブルなまちづくりをテーマとしたスタジオとする。ある設定されたフィールドにおいて、地域課題をリサーチし、課題の再発掘・再整理をした上で、サステイナブルなまちづくりに向けての目標を設定する。目標達成に向けて計画的にまちづくりの企画・デザイン実践を試みるが、その中で持続可能な都市についての様々な計画要素や環境デザイン要素についても実践的に学ぶものとする。フィールドにおける様々なステークホルダーとの交流の中で実践されることが望まれる。 (野原 卓) 特に都市デザインの視点から実践的な能力を修得する。 (田中稲子) 特に建築環境の視点から実践的な能力を修得する。 (吉田 聡) 特に都市環境の視点から実践的な能力を修得する。	共同方式
	都市と交通の連携方策と地域計画スタジオ	概要: 都市と交通が抱える課題を、都市計画と交通計画の双方の手法を用いて同時に解きほぐし、解決する能力を習得することを目的とする。具体的な計画論および分析手法を習得するとともに、それらの手法の実践的適用を行うために、具体的な地域課題を自ら設定して、そのフィールドの現状への深い理解をする中で、課題の解決の企画と提案を行う。その中では、分析・調査の手法および実践に対する普遍的な知見を得ること、および、都市計画手法と交通計画・運用手法とのバランスをとるなかで課題を解決する能力を身につける。 (中村文彦) 都市計画手法と交通計画・運用手法に関連する項目を主として担当 (岡村敏之) 分析・調査の手法に関連する項目を主として担当	共同方式
インターンシップ科目	技術系 インターンシップ(構造設計)	概要: 構造設計を専門とする実務家を育成することを目的としたインターンシップである。事前ガイダンスを行った後に、建築士事務所に出向き、構造計算書の作成等の構造設計の補助業務を通して、構造計算書の作成を行ううえで、必要となる知識及び技能を身につける。インターンシップ終了後には、その概要と成果に関する報告会を行う。担当教員はそれぞれの専門の立場から運営と評価に携わる。	共同方式
	環境系 インターンシップ(設備設計)	概要: 設備設計を実務とする企業で研修を行う。研修に際しては、事前に受け入れ企業と研修内容について十分に協議を行ったうえで実施する。研修終了後には受け入れ企業から研修期間中の業務に対する評価書を提出してもらうとともに、大学内で研修報告会を開催したうえで成績評価を行う。担当教員はそれぞれの専門の立場から運営と評価に携わる。	共同方式
	デザイン系 インターンシップ(建築計画)	概要: 建築計画・都市計画等を実務とする企業で研修を行う。研修に際しては、事前に受け入れ企業と研修内容について十分に協議を行ったうえで実施する。研修終了後には受け入れ企業から研修期間中の業務に対する評価書を提出してもらうとともに、大学内で研修報告会を開催したうえで成績評価を行う。担当教員はそれぞれの専門の立場から運営と評価に携わる。	共同方式
	インターンシップ(Y-GSA)	概要: インターンシップ(Y-GSA)・プログラムは、必修であるスタジオに替えて受講することができる実務研修制度である。そのため厳しい受講規定が設けられている。実施先はY-GSAのスタジオ・コミッティによって教育的効果があると承認された、国内外の著名建築家の設計事務所である。	共同方式
	都市経営系 インターンシップ(都市イノベーションと起業)	概要: 深い知的学識を発揮し、自ら社会や産業のニーズに対応して新しいことに挑戦する精神と問題発見解決能力を備え、経営的視点を有する起業家型人材育成をめざし、本学周辺に数多く立地する研究開発型ベンチャー企業等の協同参画を得て実施する。インターンシップ前後の期間も含めたプログラムとしている。 (高見沢実) 都市イノベーションの観点から企画管理を担当する。 (志茂 武) ベンチャー企業と起業面から調整および評価を担当する。 (田村明弘) 都市イノベーション人材面からプログラム管理および評価を担当する。	共同方式
専門教育科目	講義科目 建築系 構造物基礎工学	建築構造物を支える地盤の性質・基礎の役割を理解し、設計・施工を行う上での基本的な考え方を身につけることを目的とする。上部構造とは異なり普段目に触れない部分を扱うため、教室での講義・演習のほか、可能な限り地盤調査や地下工事現場等の見学を実施し、実際の「もの」に触れる機会を持つ。地盤や基礎を通じて、「いかに良い構造物をつくるか？」を考えてゆく。具体的な内容として、構造物基礎の役割、地盤の性質とその調査・試験、基礎設計の考え方、地下工事、動的問題と地盤の液状化、数値解析手法等を順次体系的に講じる。	
	建築耐震設計論	建築物の合理的な設計には、地震による動的挙動に対する正しい理解が必要である。ここでは、動的解析の基礎理論から建物の耐震設計までを体系的に理解できるようにする。講義の理解を助けるために必要に応じて振動台を用いた模型実験や動的解析の演習も行う。	

授業科目の概要

（都市イノベーション学府博士課程前期建築都市文化専攻）

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	講義科目 建築系 建築耐震改修論	近年の地震被害を契機として、既存建築物の耐震性能を評価し、必要な耐震改修を実施することの必要性が広く認識されるようになったことを踏まえ、主に鉄筋コンクリート造建築物を対象にその耐震診断理論、耐震改修技術ならびに弾塑性解析手法を体系的に講義し、主要な解析理論と解析技術を習得することを目的とする。耐震診断理論では、その前提となるエネルギー一定則、架構の強度、変形の定式化、耐震改修技術では、一般的な補強工法に加え、制震・免震によるレトロフィット技術、弾塑性解析法では非線形領域における部材と復元力特性のモデル化等を講じる。	
	構造物弾塑性解析論	今日の建築物の構造設計は、コンピュータを多用した高度な解析技術に支えられている。これらの解析理論に対する理解を深めることは、解析手法の適用範囲を理解し、解の妥当性を検証する能力を高める上で重要である。この講義では、部材特性のモデル化を中心に、弾塑性解析理論の基礎的事項を習得することを目的とする。前半では、変位法による骨組の弾性解析、塑性解析の講義を通じて、各種マトリクスの作成手法を学習する。後半では、3次元連続体の基本関係式と有限要素解析の講義を行い、さらに弾塑性材料の力学モデルに関する講義を通じて、塑性化する材料特性の数式表現について学習する。	
	建築応用振動論	近年、構造建築物や免震構造物に限らず、限界耐力計算法のように構造設計において建物の動的応答性状をより正確に考察する必要性が増してきたことを踏まえて、地震時の建物の動的挙動を推察するために必要な構造物の動的解析手法と一般的な建物の振動性状を体系的に講義することにより、主要な構造解析理論と建物の動的挙動に関する知識を習得することを目的とする。	
	大空間建築構造論	空間構造は、ドームや体育館、アトリウムの屋根や壁のように内部が広く、開放的な空間を構成するための構造システムおよび構造物のことをさす。柱や壁などの支点間距離（スパン）が大きい空間を効率的に構成するためには軽量化・高強度化が不可欠である。空間構造の設計者は、自由で開放的かつ気持ちの良い空間を求めて、日々、新しいアイデアやアプローチに挑戦した作品を提案している。これら事例のコンセプト、新しい提案内容、プロセス、技術的解決手段、施工方法について学ぶことは、空間構造を理解するうえで有意義である。この授業では、各自が調査対象事例を選択して文献や現地調査を行い、事例説明（プレゼン）を行うことを通じて、空間構造への理解を深めることを目的とする。	
	建築温熱環境論	屋外気候と建築の特性によって形成される温熱環境に関して実際の室内温度変化を計測し、そのデータを解析することにより建物の熱的特性と室内温熱環境の形成について理解する。また、人体の体温調節系について概要を理解し、代謝産熱量、皮膚温等の生理量の把握を通して快適な温熱環境の形成について考える。これらを総合して建築設計において快適な温熱環境の創造を実現する手法を身に付ける。	
	地域・都市環境管理論	建築、および地域、都市といった空間は、人間の生活、活動にとって安全、快適、健康的で、便利であるとともに、生態系などの自然環境にとっても負荷の小さいものでなければ持続可能性は実現できない。本講義では、このような視点に立って、建築環境工学（建築計画原論）的アプローチ、都市計画的アプローチに加えて、特に自然環境の特性を活かすアプローチ、生態学的アプローチで建築、およびその外部空間も含めた地域や都市の環境を管理する方法論について学ぶ。	
	地域省エネルギー計画論	省エネルギーの手順として、「負荷を減らす」「消費量を減らす」「環境負荷の少ないエネルギーを使用する」が挙げられる。本講義では、地域スケールでの「負荷を減らす」ための技術や計画、「エネルギー消費を減らす」ための技術や計画、「環境負荷の少ないエネルギーを使用する」ための技術や計画について、具体的な実施事例を通して学ぶ。	
	環境行動論	人間の行動と環境との相互関係を解明する環境行動研究について、基本理論を紹介した上で、建築計画学分野やまちづくりにおけるその応用例として、様々な状況における研究事例（高齢者住宅、福祉施設、博物館などにおける利用者の行動、エコミュージアムなど地域における環境保全まちづくりなどの研究）について講義をする。また演習によって実際のフィールドにおける研究への適用について学ぶ。	
	持続型集住論	持続可能な住居集合とそのための計画技術のあり方について理解を深める。20世紀の近代的建築技術を駆使して計画された住宅ストックの多くが老朽化や機能的陳腐化により見直しを迫られており、都市的・地域的視点を持ちながら時代に合った姿に持続的に更新していくことが求められている。講義では前半にドイツ・フランス等の最新事例を紹介し現代的課題について理解を深めた上で、後半ではテーマ毎にグループに分かれ、文献調査、実地調査、グループディスカッションをふまえ、これからの持続可能な住居集合のあり方について考えをまとめ発表する。	

授業科目の概要				
（都市イノベーション学府博士課程前期建築都市文化専攻）				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	講義科目 建築系	建築維持活用論	建築の寿命には物理的寿命と社会的寿命があるが、日本の多くの建築はその物理的寿命を全うする前に社会的寿命が尽きて取り壊されてしまっている。地球環境問題への関心が高まるなか、建築の社会的寿命を延ばすことは非常に重要な課題である。この課題を克服するには、2つの視点からの取り組みが必要になる。ひとつは、設計の段階から将来の維持改修を考慮に入れ、建築の社会的寿命を延ばす仕組みを組み込む視点である。いまひとつは、社会的寿命が尽きた建築に新たな利用価値を見出す、既存建築ストックの活用の視点である。本講義では、これらの視点からの多様な取り組みを紹介し、建築維持活用に関する方法論を学ぶことを目的としている。	
		西洋・近代建築史論	学部で修得した西洋建築史と近代建築史の知識を踏まえて、西洋建築史もしくは近代建築史に関わる特殊テーマを扱ったテキストを取り上げ、そのテキストを精緻に読み議論する。建築史の記述は、基本的には視覚的なものを言葉にする営為であるから、視覚的なものから受ける感覚・印象をどのように表現すべきかをテキストの読解を通して学ぶ。主張というのは、キーワードの羅列でもなく、その気ままな組み合わせでもない。あたりまえのことだが、キーワードをきちんと文章に組み込むことが必要である。あるいはまた、考えたこと、感じたことをどのように文字にすべきかをすくえたテキストから学びたい。さらには、いまという時代を意識しつつ、何がテーマとなりうるか、テーマはどのように定めるべきか、そしてそのテーマをどのように展開していくべきかを学びたい。	
		日本建築保存修復論	保存修復成果のうち中世寺社建築に焦点をあてる。中世の日本建築は、古代以来の建築の伝統を受け継ぎ我が国独自の熟成をなした和様を基盤とし、大仏様・禅宗様の新様式の導入を得て建築意匠・構造技法の面で大きな進歩を見せた。こうした中世建築の設計上の要点を、既存遺構の調査例をもとに理解する。また、最終回には横浜三溪園内に移築復原された中世仏堂「旧燈明寺本堂」を見学し、その建築技法や修復方針などについて解説する。	
		日本・東洋美術論	我が国における文化財保護の歴史、仕組み、実状などについて講義を行う。さらに日本の木造建築の特性を把握する目的で、特に古代から中世にかけての社寺建築について、空間構造や造形意匠の観点から講義を行う。なお、比較検討のため、アジア諸国の木造建築の文化にも触れる。最後に、横浜や周辺地域に現存する歴史的建造物について、保存と活用のあり方を実践的に検証する。	
		近代美術論	昨今の近代日本美術史の研究では、無自覚に十全な議論もないまま、前提とされてきた「美術」をめぐる言葉・述語の分析・検討が活発化している。本講義もそれらをふまえ、日本の「近代」「美術」「史」とは、一体何なのか、日本美術の研究をめぐる言説の概念的な枠組みをまず検討し、その上で、具体的な作品論や作家論といったモノグラフィーを、視覚的イメージをスライドで見ながら講述する。	
		市街地創造論	都市を構成する主要要素である市街地を主な対象として、これからめざすべき都市像や、そこに至るまでのプロセス、制度、主体、財源、マネジメント手法について、内外の優れた事例を広く紹介・吟味しつつ講義する。とりわけ人口減少や高齢化、地方の衰退等の課題を多く抱えたわが国の都市再生のあり方を念頭に議論を進める。	
専門 教育 科目	講義科目 都市文化系	都市デザイン論	要素が複雑な都市空間を創造し、再生するために発展した「都市デザイン」という手法が、その誕生から現代に至るまで、どのように変遷しながら多様なアプローチを展開してきたのか、国内外の歴史や優れた事例を踏まえて、講義を行う。特に、横浜を始めとした諸都市を事例に、現代都市デザインがどのように実践されているのか、具体的に考察する。	
		Y-GSA インディペンデント・スタジオ	概要:Y-GSAの教員が関係する委託研究または実務プロジェクトで、学生が参加することによって大きな教育的効果があると認定されたものを随時インディペンデント・スタジオとして開設する。	共同方式 講義 24時間 実習 21時間
		Y-GSA ワークショップA（理論）	概要:ワークショップAでは、海外の注目すべき建築家または建築理論家を招聘し、英語による10日間程度の集中講義とフィールドワークを実施する。横浜市の課題とも重なる、世界の最先端で問題となっている都市・建築に関する事象を扱うことにより、国際的水準での都市・建築的問題の理論構築を試みる。	共同方式 講義 27時間 実習 18時間
		Y-GSA ワークショップB（実践）	概要:ワークショップAで構築した理論をもとに、ワークショップ開催地での実際の都市の問題に対して、その問題解決のためのプロジェクトを建築の側から具体的に提案していく。	共同方式 講義 24時間 実習 21時間

授業科目の概要				
（都市イノベーション学府博士課程前期建築都市文化専攻）				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	講義 科目 都市 文化 系	比較文化論	欧米と日本の比較文化論を基礎に、日本における近年のサブカルチャーの状況を概観し、その展望と問題点を探る。「オタク」、「腐女子」等、現代のサブカルチャー特有の用語にも触れ、その現状を探っていく。	
		都市文芸論	都市において出版活動が始まったフランスの第二帝政期から、その後の出版文化がどのように変遷してきたのかを論じ、現代における文芸と出版の可能性を考察する。メディアの変容と作品の変容の両面から、都市と文芸の問題を考えていく。	
		都市音響論	現代の都市における古典音楽の演奏の可能性を実践的に思考し、実践活動の中で問題点を探る。日欧の主要都市（東京、横浜、ウィーン、パリ等）の、歴史と現代における音楽、音響創出の実態について、また音響が生む時空と建築の関係等について、音楽学文献、楽譜、コンサート評、映像、音楽教材、教科書等の各種資料の収集分析や、可能な範囲で現地視察、演奏実践なども行ない考察する。学生の自主的なテーマ設定と発表、さらに必要に応じてイベントやCD、DVD等の再生音響の企画、制作とそれによる実践等を含める。	
		Y-GSC ワークショップ	概要:担当教員の司会のもとに、都市芸術の諸分野で活躍するアーティストや批評家を招聘し、司会者との議論や対話を通じて、現代の都市と芸術の所在を明らかにする。 (オムニバス方式/全15回) (2梅本洋一/2回) 映画の上映と批評についてゲストと対談。 (11茂木一衛/2回) : 音楽の空間についてゲストと対談。 (10室井尚/2回) 現代アートの問題についてゲストと対談。 (清田友則/2回) サブカルチャーの問題についてゲストと対談。 (16樽沼範久/2回) 現代アートにおける身体の問題についてゲストと対談。 (19彦江智弘/2回) 都市と文芸についてゲストと対談。 (平倉圭/2回) 映画と他の諸芸術の関係についてゲストと対談。 (全員/1回) ディスカッション	オムニバス方式
		アーバンアート論A	美術館に留まらない現代美術の展示方法を紹介し、現代アートの可能性とその展示方法の間にある緊密な関係性について考察する。ポストモダン以降の都市文化・芸術の歴史的な流れを理論的に展望し、その中から未来に引き継ぐべき重要な流れを紹介するとともに、都市のただ中における新しい芸術文化創出の可能性について、現場と批評理論の両面から考察していく。対象となる領域は現代美術、映像、演劇、文学等の多岐にわたる。	
		アーバンアート論B	身体論、デザイン論、芸術論など多くの領域を横断しながら、都市と現代アートの関係性について考え、諸理論の背景をもとに、現代都市とアートの取り結ぶ空間的、身体的な現状について考察する。	
		映像芸術論A	フランス・ヌーヴェルヴァーグでもっとも先鋭的な映像作家であるジャン＝リュック・ゴダールの全体像を紹介し、実際に彼の作品を見ながら、映像表現の持つ現代的な可能性について考察する。	
		映像芸術論B	都市と映画は密接な関係がある。撮影、上映、興業といった面で、映画が都市といかなる関係があり、その関係性によって映画がどのように発展してきたのかを、歴史的に紹介し、具体的な作品を見ながら、都市と映画の関係を考察する。	

授業科目の概要

（都市イノベーション学府博士課程前期建築都市文化専攻）

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 演習科目 特別演習	建築都市文化特別演習 IS	建築都市文化分野の特定の課題について、指導教員のもとで演習を行う。ISでは、既往研究の整理と課題の具体化を行う。 （田川泰久）建築物の構造における耐震設計についての課題。 （田才晃）コンクリート建築について構造実験とその耐震設計に関する課題 （松本由香）建築構造物、特に鋼構造物の限界状態の解明に関する課題 （楠 浩一）建築構造物の耐震性能を評価・向上する方法に関する課題 （河端昌也）膜構造および空間構造の構造デザインに関する課題 （深井一夫）快適な温熱環境の合理的な創造と評価に関する課題 （佐土原聡）環境面からの持続可能な地域・都市づくりに関する課題 （吉田聡）地域のエネルギーシステムの計画技術および評価技術に関する課題 （大原一興）建築計画学の立場から施設や居住環境のあり方に関する課題 （藤岡泰寛）建築計画・設計、豊かな地域社会づくりに必要な計画理念・目標像に関する課題 （江口亨）建築物の維持活用を図り、真にサステナブルな建築の計画理念に関する課題 （吉田鋼市）西洋建築史における建築理論と様式研究に関する課題 （大野 敏）日本建築史における様式研究と保存修復実践に関する課題 （高見沢実）都市および市街地のありかたに対する計画・事業・マネジメント・主体・制度に関する課題 （野原 卓）既成市街地や都市空間における都市デザインを用いた再生論に関する課題 （茂木一衛）音楽学的手法を用いた都市における音響の課題 （室井尚）都市におけるアートのあり方についての理論に関する課題 （梅本洋一）現代の都市における映画の上映と映画作品の分析に関する課題 （樽沼範久）現代アートについての展示や身体論的アプローチについての課題 （彦江智弘）文芸作品の都市における創造のあり方についての課題。	
	建築都市文化特別演習 IF	概要 建築都市文化分野の特定の課題について、指導教員のもとで演習を行う。IFでは、基礎的な分析技法の習得と演習を行う。 （田川泰久）建築物の構造における耐震設計についての課題。 （田才晃）コンクリート建築について構造実験とその耐震設計に関する課題 （松本由香）建築構造物、特に鋼構造物の限界状態の解明に関する課題 （楠 浩一）建築構造物の耐震性能を評価・向上する方法に関する課題 （河端昌也）膜構造および空間構造の構造デザインに関する課題 （深井一夫）快適な温熱環境の合理的な創造と評価に関する課題 （佐土原聡）環境面からの持続可能な地域・都市づくりに関する課題 （吉田聡）地域のエネルギーシステムの計画技術および評価技術に関する課題 （大原一興）建築計画学の立場から施設や居住環境のあり方に関する課題 （藤岡泰寛）建築計画・設計、豊かな地域社会づくりに必要な計画理念・目標像に関する課題 （江口亨）建築物の維持活用を図り、真にサステナブルな建築の計画理念に関する課題 （吉田鋼市）西洋建築史における建築理論と様式研究に関する課題 （大野 敏）建築史における様式研究と保存修復実践に関する課題 （高見沢実）都市および市街地のありかたに対する計画・事業・マネジメント・主体・制度に関する課題 （野原 卓）既成市街地や都市空間における都市デザインを用いた再生論に関する課題 （茂木一衛）音楽学的手法を用いた都市における音響の課題 （室井尚）都市におけるアートのあり方についての理論に関する課題 （梅本洋一）現代の都市における映画の上映と映画作品の分析に関する課題 （樽沼範久）現代アートについての展示や身体論的アプローチについての課題 （彦江智弘）文芸作品の都市における創造のあり方についての課題。	

授業科目の概要			
（都市イノベーション学府博士課程前期建築都市文化専攻）			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	演習科目 特別演習	建築都市文化分野の特定の課題について、指導教員のもとで演習を行う。ⅡSでは、実際のデータによる分析方法の習得と考察手法を取り上げる。 （田川泰久）建築物の構造における耐震設計についての課題。 （田才晃）コンクリート建築について構造実験とその耐震設計に関する課題 （松本由香）建築構造物、特に鋼構造物の限界状態の解明に関する課題 （楠 浩一）建築構造物の耐震性能を評価・向上する方法に関する課題 （河端昌也）膜構造および空間構造の構造デザインに関する課題 （深井一夫）快適な温熱環境の合理的な創造と評価に関する課題 （佐土原聡）環境面からの持続可能な地域・都市づくりに関する課題 （吉田聡）地域のエネルギーシステムの計画技術および評価技術に関する課題 （大原一興）建築計画学の立場から施設や居住環境のあり方に関する課題 （藤岡泰寛）建築計画・設計、豊かな地域社会づくりに必要な計画理念・目標像に関する課題 （江口亨）建築物の維持活用を図り、真にサステナブルな建築の計画理念に関する課題 （吉田鋼市）西洋建築史における建築理論と様式研究に関する課題 （大野 敏）建築史における様式研究と保存修復実践に関する課題 （高見沢実）都市および市街地のありかたに対する計画・事業・マネジメント・主体・制度に関する課題 （野原 卓）既成市街地や都市空間における都市デザインを用いた再生論に関する課題 （茂木一衛）音楽学的手法を用いた都市における音響の課題 （室井尚）都市におけるアートのあり方についての理論に関する課題 （梅本洋一）現代の都市における映画の上映と映画作品の分析に関する課題 （樽沼範久）現代アートについての展示や身体論的アプローチについての課題 （彦江智弘）文芸作品の都市における創造のあり方についての課題。	
		建築都市文化特別演習ⅡF	建築都市文化分野の特定の課題について、指導教員のもとで演習を行う。ⅡFでは、これまでの3学期間の演習成果を踏まえて当該課題での研究成果の取りまとめ方について学ぶ。 （田川泰久）建築物の構造における耐震設計についての課題。 （田才晃）コンクリート建築について構造実験とその耐震設計に関する課題 （松本由香）建築構造物、特に鋼構造物の限界状態の解明に関する課題 （楠 浩一）建築構造物の耐震性能を評価・向上する方法に関する課題 （河端昌也）膜構造および空間構造の構造デザインに関する課題 （深井一夫）快適な温熱環境の合理的な創造と評価に関する課題 （佐土原聡）環境面からの持続可能な地域・都市づくりに関する課題 （吉田聡）地域のエネルギーシステムの計画技術および評価技術に関する課題 （大原一興）建築計画学の立場から施設や居住環境のあり方に関する課題 （藤岡泰寛）建築計画・設計、豊かな地域社会づくりに必要な計画理念・目標像に関する課題 （江口亨）建築物の維持活用を図り、真にサステナブルな建築の計画理念に関する課題 （吉田鋼市）西洋建築史における建築理論と様式研究に関する課題 （大野 敏）建築史における様式研究と保存修復実践に関する課題 （高見沢実）都市および市街地のありかたに対する計画・事業・マネジメント・主体・制度に関する課題 （野原 卓）既成市街地や都市空間における都市デザインを用いた再生論に関する課題 （茂木一衛）音楽学的手法を用いた都市における音響の課題 （室井尚）都市におけるアートのあり方についての理論に関する課題 （梅本洋一）現代の都市における映画の上映と映画作品の分析に関する課題 （樽沼範久）現代アートについての展示や身体論的アプローチについての課題 （彦江智弘）文芸作品の都市における創造のあり方についての課題。

授 業 科 目 の 概 要			
(都市イノベーション学府博士課程前期都市地域社会専攻)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	技術系 建築構造性能論	概要: 建築の構造に要求される性能を評価するための基本的な限界状態（機能性、修復性、安全性）を明確にした上で、荷重・外力の種類とその強さのレベルを区分し、各構造システムが如何にその構造性能を発揮し得るかについて判定する手法を学ぶ。具体的には、性能規定化された建築基準法と指定建築材料、耐久性等関連規定と政令で定める技術基準、荷重・外力の規定と許容応力度等計算、限界耐力計算と等価質量・代表変位、エネルギー法による耐震設計と鉄骨構造の性能、鉄筋コンクリート造建物に関する限界状態と構造性能、鉄筋コンクリート造建物の耐震性能評価法等について順次体系的に講じる。 (オムニバス方式/全15回) (8田川 泰久/6回)耐震性能全般 (9田才 晃/6回)鉄筋コンクリート造の性能評価 (1) 松本 由香/3回)制度・基準面	オムニバス方式
	都市の地盤防災と地盤環境	アジアの都市の多くは平坦な沖積平野の河口付近に立地し、その表層地盤は軟弱である。また、急激な人口増加や社会の変化に対応するために、埋立て・造成による地形改変、河川の改修・付替え・暗渠化、地下水の汲み上げ、管路の埋設やトンネル・地下街・各種の産業インフラの建設、廃棄物の処分・投棄などの行為が表層地盤に対して行われてきた。そのため、ゼロメートル地帯に象徴される自然災害への脆弱性、工場跡地の土壌汚染、進まない廃棄物処分施設の建設、大深度法を適用する地下空間開発など、大都市に特有な地盤工学的課題が多い。この講義では、これらの課題やそれに関わる研究・技術開発について学習する。	
環境系	グリーンビルディング建築学	概要: 地域活動や建築物が環境負荷に及ぼす影響を、環境物理量、エネルギー消費等から明らかにし、さらなる環境負荷の削減に向けて、都市、地域、建築物における対策案の評価、教育研究を行なう。建物単独の省エネルギーシステムだけでなく、建築と都市、都市と自然とのエネルギー収支などもマクロな視点で扱い、地球環境負荷軽減に関しての知識を獲得し、関連する建築、都市、地域における諸活動に理解を深める。 (大野茂) 建物について、熱源・空調計画法、省エネルギー計画技術と評価技術についての解説を主に担当する。 (深尾仁) 建物、地域の環境負荷の評価手法と経済的な見地からの環境評価尺度の解説を主に担当する。	共同方式
	地域・都市環境計画論	概要: 建築に加えて、地域、都市といった空間は、人間の生活、活動にとって安全、快適、健康的で、便利であるとともに、生態系などの自然環境にとっても負荷の小さいものでなければ持続可能性は実現できない。本講義では、このような視点に立って、建築環境工学（建築計画原論）的アプローチ、都市計画的アプローチ、自然環境・生態学的アプローチで建築及びその外部空間を含めた地域や都市の環境計画の方法論について学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (6佐土原聡/7回) 自然環境・生態学的アプローチ (23吉田 聡/8回) 建築環境工学（建築計画原論）的アプローチ、都市計画的アプローチ	オムニバス方式
デザイン系	環境心理学	概要: 環境心理学の諸理論や調査手法に関する基礎的知識を習得した上で、具体的な研究事例として、評価グリッド法の適用例（丸山講師）、高齢者施設空間研究や子どもの空間認知に関する調査研究例（大原）について講義にて紹介した後、討議・考察を行い、演習課題の実施を交えることにより、環境デザイン、建築学分野、建築計画分野において環境心理学を適用する具体的方法や、研究への応用方法について学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (3大原一興/8回)オリエンテーション、および後半の講義と演習 (丸山 玄/7回)前半の講義と演習	オムニバス方式
	横浜建築都市学S	概要: 本講座は、建築と都市の未来はどこに向かうべきかを考えるために、「建築」と「都市」を相互に関連づけながら議論していくことを目的としている。建築、社会学、都市デザインといった分野から専門家を招聘し、講義を行なう授業である。建築講座・都市講座の2シリーズを、月1回ずつ開催する。 (小嶋一浩、北山恒、飯田善彦、西沢立衛)建築講座を主に担当する。 (小林重敬、鈴木伸治)主に都市講座を担当する。 (寺田真理子)両講座の企画・マネジメントを主に担当する。	共同方式
	横浜建築都市学F	概要: 本講座は、建築と都市の未来はどこに向かうべきかを考えるために、「建築」と「都市」を相互に関連づけながら議論していくことを目的としている。建築、社会学、都市デザインといった分野から専門家を招聘し、講義を行なう授業である。建築講座・都市講座の2シリーズを、月1回ずつ開催する。FはSを踏まえた応用的なテーマを扱う。 (小嶋一浩、北山恒、飯田善彦、西沢立衛)建築講座を主に担当する。 (小林重敬、鈴木伸治)主に都市講座を担当する。 (寺田真理子)両講座の企画・マネジメントを主に担当する。	共同方式

授 業 科 目 の 概 要 (都市イノベーション学府博士課程前期都市地域社会専攻)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	デザイン系 都市と芸術S	概要:映画を中心にした映像、映画を中心にした歴史的な考察、諸芸術を重層させた展示の方法等、現代の都市における芸術の諸相を解説する。対談形式によって、それぞれの時代を画する映画作家の作品について、どのように論じるべきかを実践的に示すことによって、問題の所在を明らかにする。 (オムニバス方式/全15回) (2梅本洋一/3回) 映画の上映形式について。 (19彦江智弘/4回) 映画の歴史について。 (平倉圭/4回) 映画と他の諸芸術の関係について。 (2梅本洋一、19彦江智弘、平倉圭/4回) 全員によるディスカッションおよび2人による対談等を交える。	オムニバス方式
	都市と芸術F	概要:現代芸術と諸理論を紹介し、比較文化的な見地からその実際について解説し、現代芸術における身体の問題を解説する。また包括的な文化理論・文化哲学的な考察、都市文化が孕む消費社会との深い関わり、写真やサブカルチャーなどの諸表象に含まれている無意識的な欲望の解説など、都市に浮かび上がる文明のさまざまな光と影を具体的な事例を通して読み解いて行く。授業は講義形式のみならず、ディスカッション、グループ作業などを通して、インタラクティブに行っていく。 (オムニバス方式/全15回) (10室井尚/4回) 文化理論的考察。 (清田友則/4回) サブカルチャー系。 (16樽沼範久/4回) 身体の問題。 (10室井尚、清田友則、16樽沼範久/3回) ディスカッション。	オムニバス方式
地域共生系	都市基盤と地域開発	都市基盤施設および地域開発にかかる諸問題の歴史的経緯、現在の課題、そして内外の先進的な事例の考察と評価を学ぶ。特に都市交通にかかる施設を例題として、欧州、北米、南米、アジアでのここ30年程度の実践例を豊富に紹介し、これからの政策立案、計画立案と推進、技術支援に必要な、ものの考え方を学ぶ。あわせて、政策の枠組みという点で、地球環境問題、人口問題、経済変動問題、モータリゼーションなどのキーワードと地域開発、都市基盤整備の関係も取り上げ、実践的な研究課題の設定方法や取り組み方法を身につける上での基礎的素養を修得する。	
	地域研究と異文化理解S	概要:各担当者がフィールドとする地域の研究課題と研究成果を題材としながら、それぞれの地域研究の接近方法とその違い、学問的な関心のあり方、そしてその地域を理解し研究することが、われわれにとってどのようなことを意味するのか、を他分野、他地域の専攻者に関心を共有しようという概説する。各担当者の研究領域である社会経済史(朝鮮)、社会文化史(北米)、比較経済思想論(日本・中国)、社会思想史(ロシア)のそれぞれにかんして、オムニバス形式(15回)で進める。 (オムニバス方式/全15回) (34須川英徳、47松原宏之、49千 臣、大須賀史和/2回) 課題の設定 (47松原宏之/3回) 北米の社会文化史から考察する。 (34須川英徳/3回) 朝鮮の社会と経済を歴史的に考察する。 (大須賀史和/3回) ロシア社会思想を事例に取り上げる。 (49千 臣/3回) 日中比較経済思想の見方を紹介する。 (34須川英徳、47松原宏之、49千 臣、大須賀史和/1回) まとめ	オムニバス方式
	地域研究と異文化理解F	概要:各担当者がフィールドとする地域の研究課題と研究成果を題材としながら、それぞれの地域研究の接近方法とその違い、学問的な関心のあり方、そしてその地域を理解し研究することが、われわれにとってどのようなことを意味するのか、を他分野、他地域の専攻者に関心を共有しようという概説する。各担当者の研究領域であるジェンダー論(中国)、文化人類学(アフリカ)、国際社会学(東南アジア)、社会文化論(フランス)のそれぞれにかんしてオムニバス形式(15回)で進める。 (オムニバス方式/全15回) (33白水紀子、41小ヶ谷千穂、44長谷川秀樹、松本尚之/2回) 課題の設定 (33白水紀子/3回) 東アジアジェンダー論の立場から考察する。 (松本尚之/3回) 文化人類学で見るアフリカ。 (44長谷川秀樹/3回) 現代フランス社会の事例から考察する。 (41小ヶ谷千穂/3回) 現代東南アジア社会の事例を紹介する。 (33白水紀子、41小ヶ谷千穂、44長谷川秀樹、松本尚之/1回) まとめ	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
（都市イノベーション学府博士課程前期都市地域社会専攻）				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通科目	地域共生系	都市が発展、成長するということは、その社会および地域における変化とともに進行してきたことなのか。この講義では、前近代から近代、そして現代という大きな社会変化を経験してきた北東アジア（主として韓国）、東南アジアを対象として、都市の機能や目的の変化を時間軸のなかで把握するとともに歴史学、社会学の視点から考察し、基礎的な素養と知識を習得する。 （オムニバス方式/全15回） ②須川英徳、①小ヶ谷千穂）イントロダクション ②須川英徳/8回）韓国の歴史的経験から、都市の変容と成長について考察する。 ①小ヶ谷千穂/4回）現代東南アジアの事例から、人々の移動を軸として社会学的に考察する。 ②須川英徳、①小ヶ谷千穂/2回）総括と総合討論	オムニバス方式	
	都市経営系	概要：都市居住環境に関する評価方法および政策課題等について基礎的学習を行なった後、実際の大都市圏内に複数のスタディー地区を設定して現地調査を含めた実践的調査を行ない報告。討議の中から相互比較、評価方法の問題点、居住環境改善に向けた方策等を学ぶ。さらに大都市圏を対象とし指標をベースとして計画管理を行なっている事例をとりあげ、計画管理手法、個々の指標設定の適切さ、指標の組み合わせの適切さ等につき学ぶ。 （オムニバス方式/全15回） ⑦高見沢実/7回）大都市圏を対象とする指標による計画管理 ⑮野原卓/8回）大都市圏内の地区をベースとした居住環境評価	オムニバス方式	
	都市イノベーションと起業	概要：本講義は、ベンチャーマインドを持った人材養成をめざした新しい大学院教育を目指している。そこでまず、都市イノベーションと起業に伴う問題について、ベンチャー起業や企業経営に関して民間の第一線で活躍しているエキスパートの方々に講義していただく。続いて、受講者数名ごとにチームをつくり、実際のベンチャー企業を訪問し直接起業家社長に対してヒアリング調査を行う。その後、更にアイデアを出し合いビジネスプランをまとめ上げるクリエイティブな作業を行なう。最後は講師陣を前にした講評会での発表を行なう。 ⑦高見沢実）都市イノベーションの観点から企画調整および講義の管理を担当する。 ⑮志茂 武）ベンチャー企業と起業論全般および講義運営を担当する。 ⑮田村明弘）都市イノベーション人材論全般および講義運営を担当する。	共同方式	
	都市マネジメント	都市の持続可能な発展のためには、地域の特性にマッチした活力ある産業の発展が必要である。本講義では、都市作りが建設業や不動産業、あるいは設計会社のみでなされているわけではなく、その中で都市に住む人達の食の支持を提供する各種産業が支え、都市を形作っていることの理解をまず深める。又、都市は単に管理をしていけばよい、と言うわけではなく、都市マネジメントの視点が、今後は特に必要である。時代にマッチした活性化された産業群をどう形作っていくか、又その地域の特有の歴史・文化・人材・技術を熟知しつつそれを根底においた市民・地域の活性化をどう推進していくのか、あるいは、公共と民間の新たなパートナーシップのあり方等、トータルな都市経営に関する今日的な課題、ならびに第一線で活躍する講師による事例紹介を通じて、都市のマネジメントについての基本的な考え方を養う。		
	国際地域協力論	開発途上国に共通する社会経済的特徴を熟知した上で、今日の開発途上国が直面する地域課題、貧困、分配の不平等、失業、人口増加、環境保全、累積債務などの国内的及び国際的諸問題へのアプローチと分析方法を学習することにより、開発途上国に対する経済開発及び制度構築のあり方を理論的に考察する。開発協力は幅広い学際的領域であり、本授業を受講することにより、個別の領域についての多角的アプローチが可能となる。		
実践教育科目	技術系	建築構造工学スタジオ	概要：建築構造工学に関する実践的なプロジェクトや課題を通して、構造技術者としての素養を高めることを目標としたスタジオとする。先ず鉄骨構造、RC構造、ドーム・空間構造、など、材料種別や構造形式に応じて問題点を整理する。次に、現象の解明や定量的な評価、対策の立案等を目的として、実験計画を立て、建物のモデル化・解析などを実施する。これらのプロセスを通じて、構造計画・構造設計・施工計画において必要な知識を学び、問題解決能力や工学的な判断力を養う。 ⑨河端昌也）特に建築構法の視点から実践的な能力を修得する。 ⑮松本由香）特に鉄骨構造の視点から実践的な能力を修得する。 ⑮楠 浩一）特にRC構造の視点から実践的な能力を修得する。	共同方式

授 業 科 目 の 概 要			
(都市イノベーション学府博士課程前期都市地域社会専攻)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実践教育科目	技術系 スタジオ科目	地域性を考慮した都市基盤施設の耐震耐久性設計スタジオ 概要：都市基盤を構成する構造物として広く用いられている鉄筋コンクリート構造物とプレストレストコンクリート構造物を対象として、それらの耐震性と耐久性をテーマとした設計・演習および関連の講義を履修する。構造物の耐震設計条件および耐久設計条件には、構造物が設置される地域の地盤条件や環境条件が主要な影響要因となるため、それらの影響要因を関連の設計図書に基づき考慮する。耐震性および耐久性に関する具体的問題についての課題を通して、必要な知識を学び、問題解決能力および工学的判断力を養う。 （椿 龍哉）都市基盤を構成するコンクリート構造物を対象として、その耐震性と耐久性の向上のための設計技術に関して、解析、実験を通して学ぶ。 （細田 暁）都市基盤を構成するコンクリート構造物を対象として、その耐震性と耐久性の向上のための維持管理技術に関して、解析、実験を通して学ぶ。	共同方式
	環境系	水圏の防災環境計画スタジオ 概要：世界の沿岸域、湖沼貯水池、河川から上下水道まで、水に関わる事象を対象とし、防災や環境に関わる、具体的な解決すべき題材を設定する。設定された題材について、現地調査、室内実験、資料の収集と解析、インタビュー、コンピュータシミュレーション等の手法を適宜採用し、題材として採り上げた課題の背景と現状の問題点の把握、および解決への道筋について検討し、課題解決策の提案や、必要となる研究課題の抽出を行う。通常の実験作業に加え、月に1回進捗状況に関するプレゼンテーションを行い、さらに最終レポートと最終プレゼンテーションを課す。 （佐々木淳）現地調査およびコンピュータシミュレーションを主な手法として、環境系の分野を重点的に扱う。 （鈴木崇之）現地調査および室内実験を主な手法として、防災系の分野を主に扱う。	共同方式
	デザイン系	地盤防災と地盤環境マネジメントスタジオ 概要：地盤防災ないし地盤環境に関わるある設定された具体的なテーマについてプロジェクトを遂行する。課題の探索、文献調査・調査・試験・計測などによる情報の収集・分析、報告書の作成などを通じて、シビルエンジニアとしても必要なコンピテンシー（課題解決能力・業務遂行能力・コミュニケーション力など）を身につける。進捗状況について適宜、報告・連絡・相談を行いながら作業を進める。取りまとめた内容についてレポートを作成し、プレゼンテーションを行う。 （谷 和夫）地盤防災ないし地盤環境に関わるテーマにおいて、特に岩盤工学や地盤調査技術の向上に関するプロジェクトを遂行する。 （早野公敏）地盤防災ないし地盤環境に関わるテーマにおいて、特に地盤改良技術の向上に関するプロジェクトを遂行する。	共同方式
		建築理論スタジオ 概要：建築理論スタジオは、建築史や建築計画の視点を軸に、持続可能な人間社会創造に向けてどのような理論と実践技術が提案可能かを考える。スタジオは、主に大都市横浜・川崎市緑辺部を中心に神奈川県下をフィールドとし、具体的各プロジェクト実践を通して行う。この地域は豊かな自然が残り歴史的ストックも多いエリアであるが、常に都市スプロールの影響にさらされるエリアでもある。各プロジェクトはフィールドワークを軸に、住民、NPO、行政、建築専門家、等々の様々な主体との協働作業を通じて、これらの課題に触れ、問題解決モデルを具体的な提案にまとめ上げる。フィールドワークの成果は逐次現場に還元して検証して新たな展開に結びつける。 （大野 敏）特に建築史の視点から実践的な能力を修得する。 （藤岡泰寛）特に建築計画の視点から実践的な能力を修得する。 （江口 亨）特に建築ストックの視点から実践的な能力を修得する。	共同方式
		現代アートスタジオ 概要：現代アートに関する理解を前提に、近年の傾向について整理し、そうした傾向を踏まえた上で、新たな展示の方法を考察しながら、実際に企画・運営を行う。（室井尚）と（樽沼範久）が完全なコラボレーション形式で担当する。	共同方式
		文芸メディア創作スタジオ 概要：批評を中心にした実際のクリエイティブライティングから出発し、それらがどのように編集され、一冊にまとめられていくかを考察し、実際に、ウェブ、雑誌等のメディアにまとめていく。編集作業、執筆作業等を実践しながら、現代的な文芸メディアのあり方を考察していく。（清田友則）と（彦江智弘）が完全なコラボレーション形式で担当する。	共同方式
		音響空間スタジオ コンサートホール、ライブスペース等、都市における多彩な音楽空間の考察から出発し、それらの音響空間において、どのような活動が適切かを学び、実際の空間を立案し、コンサート、ライブ等を行う。受講者は各種ホール、教会、オペラ劇場等、様々な建築空間での演奏、上演、パフォーマンス等を見学、鑑賞する。さらに実際にこれらに参加し響きの創出そのものを体験するのが望ましい。また時代様式やライブ形態、演奏形態等に応じての残響やステージ形状などの体験、研究から映像、照明等との統合、さらにはコンサートマネジメントでの扱い方に至るまで、理論と実践を連携させ広く実践的に学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要 (都市イノベーション学府博士課程前期都市地域社会専攻)				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
実践教育科目	デザイン系	映像芸術スタジオ	概要:都市における映像作品上映スペースの実地見学によって、そうしたスペースでの上映作品のプログラミングを実践的に学び、地域のニーズを考察した上で、上映形式を提案し、実際に作品選定と上映活動を行う。(梅本洋一)は主に上映形式とプログラムについて担当し、(平倉圭)は、実践的な作品製作について担当する。	共同方式
	地域共生系	集積都市域の防災マネジメントと社会基盤メンテナンススタジオ	概要:高度に集積発達した都市社会においては、社会基盤構造物を強風、地震などの自然の脅威に対しても安全に供用させるとともに、長寿命化を目指した予防保全的な維持管理が求められる。本スタジオでは、橋梁を始めとする社会基盤構造物を対象として、強風、地震の作用に対する応答予測技術、応答制御技術などの防災マネジメント、さらには長寿命化のためのメンテナンス技術等に関して、解析や実験を行うとともに得られた成果について指導教員との議論を通して、実践的に学ぶ。 (山田均)橋梁など社会基盤構造物を対象として、強風、地震の作用に対する応答制御技術に関して、解析、実験を通して学ぶ。 (勝地弘)橋梁など社会基盤構造物を対象として、強風、地震の作用に対する応答予測技術に関して、解析、実験を通して学ぶ。 (佐々木栄一)橋など社会基盤構造物を対象として、長寿命化のためのメンテナンス技術に関して、解析、実験を通して学ぶ。	共同方式
		欧米都市文化研究スタジオ	概要:成熟した社会である欧米を対象に、都市はどのように生長し、成熟してきたのか、多文化共生をはじめとする具体的なテーマを設定して、文献調査および資料収集、フィールドワーク、分析と報告書作成を行う。それらの作業を通じて、必要な人文社会科学的な調査能力と分析能力、コミュニケーション能力を実践的に養う。 (松原宏之)アメリカ社会文化史の観点からアプローチ、分析の手法を指導する。 (長谷川秀樹)フランス社会文化論の観点からアプローチ、分析の手法を指導する。 (大須賀史和)ロシア思想史の観点からアプローチ、分析の手法を指導する。 (小宮正安)中欧の社会文化論の観点からアプローチ、分析の手法を指導する。 (矢内光一)ヨーロッパ古典哲学の観点から指導する。いずれも、文献・史料・資料理解に必要な読解力も養う。	共同方式
	アジア・途上地域研究スタジオ	概要:急速に成長する都市を抱えたアジアをはじめとする諸地域を対象に、都市とその地域が抱える諸問題はなにか、具体的なテーマを設定して、文献調査および資料収集、フィールドワーク、分析と報告書作成を行う。それらの作業を通じて、必要とされる人文社会科学的な調査能力と分析能力、コミュニケーション能力を実践的に養う。 (白水紀子)中国の社会文化にかんして文献調査と分析について指導する。 (小ヶ谷千穂)東南アジアにかんして社会学的なアプローチと分析手法を指導する。 (須川英徳)韓国にかんして歴史学的方法によるアプローチと分析について指導する。 (于 臣)思想史の観点から指導する。 (松本尚之)アフリカについて文化人類学の観点からのアプローチと分析について指導する。いずれも必要な文献・資料・史料理解のための読解力も養う。	共同方式	
都市経営系	環境都市デザインスタジオ	概要:サステイナブルなまちづくりをテーマとしたスタジオとする。ある設定されたフィールドにおいて、地域課題をリサーチし、課題の再発掘・再整理をした上で、サステイナブルなまちづくりに向けての目標を設定する。目標達成に向けて計画的にまちづくりの企画・デザイン実践を試みるが、その中で持続可能な都市についての様々な計画要素や環境デザイン要素についても実践的に学ぶものとする。フィールドにおける様々なステークホルダーとの交流の中で実践されることが望まれる。 (野原 卓)特に都市デザインの視点から実践的な能力を修得する。 (田中稲子)特に建築環境の視点から実践的な能力を修得する。 (吉田 聡)特に都市環境の視点から実践的な能力を修得する。	共同方式	
	都市と交通の連携方策と地域計画スタジオ	概要:都市と交通が抱える課題を、都市計画と交通計画の双方の手法を用いて同時に解きほぐし、解決する能力を習得することを目的とする。具体的な計画論および分析手法を習得するとともに、それらの手法の実践的適用を行うために、具体的な地域課題を自ら設定して、そのフィールドの現状への深い理解をする中で、課題の解決の企画と提案を行う。その中では、分析・調査の手法および実践に対する普遍的な知見を得ること、および、都市計画手法と交通計画・運用手法とのバランスをとるなかで課題を解決する能力を身につける。 (中村文彦)都市計画手法と交通計画・運用手法に関連する項目を主として担当 (岡村敏之)分析・調査の手法に関連する項目を主として担当	共同方式	

授 業 科 目 の 概 要			
(都市イノベーション学府博士課程前期都市地域社会専攻)			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実践教育科目	技術系 インターンシップ科目	インターンシップ（都市基盤） 概要:都市基盤に関する実務的テーマを選び、学外（都市基盤に関連する行政機関、公的及び民間の研究機関、民間企業等）、でのインターンシップを通じてエンジニアリングセンスを獲得する。具体的には、1. テーマの選択・決定、2. 学外でのインターンシップ、3. レポートの作成 を通じて実践的な能力を身に付ける。	共同方式
	地域共生系	インターンシップ（異文化交流） 概要:スタッフによる指導（集中講義による事前指導）、関係機関における実習、実習終了後の報告会。異文化交流とはどのようなことなのか、実際に行っている国内外のさまざまな団体・組織と連携して、担当教員の指導を受けたうえで現場での実習を行う。また、その体験で得たものについて、それぞれの報告会を実施する。	共同方式
	都市経営系	インターンシップ（都市イノベーションと起業） 概要:深い知的学識を発揮し、自ら社会や産業のニーズに対応して新しいことに挑戦する精神と問題発見解決能力を備え、経営的視点を有する起業家型人材育成をめざし、本学周辺に数多く立地する研究開発型ベンチャー企業等の協同参画を得て実施する。インターンシップ前後の期間も含めたプログラムとしている。 (高見沢実)都市イノベーションの観点から企画管理を行う。 (志茂 武)ベンチャー企業と起業面から調整および評価を行う。 (田村明弘)都市イノベーション人材面からプログラム管理および評価を担当する。	共同方式
専門教育科目	講義科目 都市基盤系	都市基盤安全設計学 日本は、台風常襲地帯に位置し、毎年2、3個の台風の上陸を受ける。そのたびに、大小様々な強風被害が報告されている。また、構造形式が進展、複雑化する中で、予想もしなかった振動現象が現れる場合も多々ある。ここでは、自然災害の一つである強風災害および様々な構造物や構造物の部分に発生する空力振動の諸問題について、特に構造物の被害、その耐風安定性、また風環境問題を剥離流体力学、構造工学、気象学、確率統計学を基礎に、設計論の基礎から橋梁に関する剥離流体力学の関連トピックまで総合的に学習する。	
	都市基盤環境相関学 周辺環境からの短期的および長期的要因が都市基盤を構成する構造物に及ぼす作用を対象として、材料および構造物の非線形性を考慮した解析手法とその応用について学ぶ。主な内容は、都市基盤構造物の変形とひずみ、応力、構造物を構成する材料の構成則に関する基礎的事項、および非線形問題の数値解析手法である。短期および長期の荷重および環境からの影響を受ける種々の社会基盤材料の非線形な応力ひずみ関係を表すモデルおよび非線形性を含む構造問題の解析技法を習得することに重点を置く。		
	耐震耐久設計学 都市基盤を支える土木構造物のメンテナンスが社会の注目を集めている。この授業では、コンクリート構造物の変状事例、メンテナンスおよび新設構造物の耐久性設計について最新の内容を発信する。変状は、実際の鉄道構造物等に発生したものを取り扱い、構造特性、変状の原因、対策について学ぶ。日本の最先端の耐震設計を学ぶ。さらに、大地震の際の鉄道構造物の復旧、コンクリート構造物の耐震補強などを通して耐震設計・耐震補強の実際について学ぶ。		
	地盤設計学 都市を築き上げるためには、軟弱地盤上に、建築物、道路、鉄道、港湾、ダム、上下水道施設などを築き上げる必要がある。本講義では、軟弱地盤上に構造物を建設すると安定を損なう場合、また土構造物そのものがそのままでは安定を保持できない場合、いかにして安定を担保するための方策を講じるかについて以下の事項を学ぶ。1. 軟弱地盤の定義と形成、2. 軟弱地盤調査と土質試験方法、3. 軟弱地盤の安定と変形、4. 地盤改良工法の種類と歴史、5. 固化処理/高密度化/置換・充填/補強技術による改良地盤の設計		
	コンクリート工学論 コンクリート構造物の劣化要因である塩害、アルカリ骨材反応、中性化、化学腐食、凍結・熱等のメカニズムを理解し、その対策を考える。さらに、現在、直面している地球環境の諸問題に対応したエネルギー開発の最前線の情報を取得し、広範囲な知見でエネルギー開発の意義が語れることを目的とする。基幹となる講義の基礎知識を有していることを前提に、レポート課題を課し、その作成と結果の討議を通して全体の理解を深める工夫をする。		
	都市防災システム論 都市は複雑かつ高度に稠密化しており、地球温暖化、異常気象の頻発に伴い、一層災害を被りやすい状況となっている。都市基盤構造物は、長期間に渡って安心・安全なサービスを提供し続けることが要求されており、自然災害に対する対処は、自然災害の種類、自然災害の現れ方、設計思想により、固有の方法で行われている。授業では、自然外力として強風と地震を対象として、自然災害の発生メカニズム、耐風・耐震構造の設計法、時間的・空間的に変動する自然外力確率変量を対象とした確率論的設計手法、都市防災システム論などについて学ぶ。		

授 業 科 目 の 概 要 （都市イノベーション学府博士課程前期都市地域社会専攻）					
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専 門 教 育 科 目	講 義 科 目	都 市 基 盤 系	都市基盤構造材料学	概要:代表的な構造用材料である鋼材を用いた構造物は公共事業の重要な部分を構成している。道路や鉄道の鋼橋・橋脚、高層ビルの建築鉄骨などが代表的なものであるが、他にも鋼ケーソン・水門・水圧鉄管など都市基盤を支える重要な鋼構造物は少なくない。これらの鋼構造の設計施工条件は必ずしも同一ではないが、これらの設計、施工、管理においては、鋼構造の共通基本項目である鋼材の種類や性質、品質管理、破壊形式等、破壊制御設計法等を理解することが不可欠である。本講義ではこれらの項目について多くの事例を踏まえながら議論し、調査、ディスカッションを行うことにより、理解を深める。 (オムニバス方式/全15回) (4佐々木栄一/8回) 橋梁など社会基盤構造物を対象として、高性能鋼材の仕様、継手、破壊現象について議論を進め、学ぶ。 (秋山晴樹/7回) 重要な鋼構造物として長大橋を対象として取り上げ、その設計、施工、管理における技術を実務的な視点から議論し学ぶ。	オムニバス方式
			水圏環境論	都市の水瓶である湖沼、貯水池から、多くの都市が立地する沿岸域の水に関わるプロセスを対象とし、特に閉鎖性水域のマネジメントに資する技術体系について講義する。まず、閉鎖性水域における流動場や混合現象を理解するため、流れの基礎方程式、密度場や地球自転の影響といった、閉鎖性水域に特徴的な物理過程を理解する。また、化学過程や生物過程から生態系に関する勉強を通じて、水圏環境の総合的な理解を目指す。得られた知見を基礎として、劣化した環境の再生を含む、環境マネジメント技術を学ぶ。	
			水圏防災論	津波、高潮、高波浪を始めとした、沿岸域に大きな災害を与えるうる自然現象の学理の基礎について学ぶ。まず、波の特性を理解するため、波の発生と伝播、波力などについて学ぶ。さらに、津波、高潮、海岸侵食の発生メカニズムを学ぶと共に、ハード対策としての海岸構造物、ソフト対策としてのハザードマップの役割についても学ぶ。加えて、沿岸域において発生した自然災害を通して、水圏防災の重要性を理解する。	
			地盤環境工学論	本講義では、地盤工学分野における環境問題で特に注目されている、1. 土壌・地下水汚染などの地盤環境汚染、2. 廃棄物処分場の建設と管理、3. 副産物の地盤材料としての再利用、を中心とした事項を学ぶ。また、副産物の地盤材料としての利用に見られるように、新しい地盤材料を開発した場合の工学的評価方法すなわちLCMとリスクコミュニケーションについても論じる。さらに、地盤工学における最近の話題を紹介し、そこに内在する課題について議論する。	
			耐震工学論	地震は、わが国における自然災害の中で最も恐ろしいものの一つであるとともに、土木・建築構造物を設計・建設する際の重要なファクターである。この講義では、地震工学全般に関する幅広い知識の習得を目指して、地震学概論、地震動学、耐震構造学、地震防災論について学ぶ。基幹となる講義の基礎知識を有していることを前提に、授業のなかでは、最近の地震被害のビデオやスライドなども用いて、実現象の理解に力を入れる。	
			交通計画学	交通計画に関して、計画制度と政策、計画の評価手法について講義を行う。具体的には、次の3トピックを扱う。(1)交通基盤整備のための制度：施設整備のための計画制度と財源制度、交通事業に対する規制制度、都市公共交通の運営と管理手法 (2)交通計画のためのデータとその分析手法：様々な都市交通のための調査手法、交通需要予測の理論と適用 (3)交通プロジェクトの評価手法：交通プロジェクトの評価の枠組み、費用便益分析の理論と実務、環境質の評価手法。	
			維持管理計画学	概要:近年、多くの構造物の経年劣化が問題視され、安全確保のため効率的な維持管理体制の確立が重要となっている。構造物の維持管理を効率的に行うためには、損傷・劣化挙動を把握した上で、精度の良い点検技術、状況を監視するモニタリング、効果的な補修・補強対策の提案などについて検討し、効率的なメンテナンス計画を構築することが重要となる。ここでは、損傷・劣化、点検、モニタリング、補修・補強手法などをキーワードとして、構造物の維持管理に関して議論、事例調査、プレゼンテーションを通して理解を深める。 (山田 均) 社会基盤構造物の維持管理計画の策定方法、ライフサイクルコストの概念等保守管理計画立案上の重要事項について議論し学ぶ。 (佐々木栄一) 社会基盤構造物のうち、特に、疲労、腐食等の鋼構造物の劣化損傷を対象にその対策、モニタリング技術について学ぶ。 (細田暁) 社会基盤構造物のうち、特に、塩害、中性化等のコンクリート構造物の劣化損傷とその対策、管理方法について学ぶ。	共同方式

授 業 科 目 の 概 要				
（都市イノベーション学府博士課程前期都市地域社会専攻）				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育 科目	講義科目 都市 基盤 系	都市水循環論	概要:都市活動に不可欠な水資源の確保、利用、廃水処理といった水循環全般の基礎を包括的に扱う。まず、世界水循環の状況を学ぶことで、世界的な水の希少性と日本の立場を理解する。次に、水資源の確保の視点で、ダム開発や河川開発、浄水技術について学び、同時に河川環境の再生について理解を深める。また、都市で利用された後の廃水処理について、下水道の整備、下水処理・汚泥処理技術について学ぶ。さらに、雨天時合流式下水道越流水問題等、都市における水循環の環境への影響と今後の課題について理解する。 (オムニバス方式/全15回) (林秀樹/10回)水資源および上水に関する講義を担当 (渡邊聡/5回)下水に関する講義を担当	オムニバス方式
		都市基盤政策論	都市基盤政策のベースとなる都市計画理論、社会基盤計画理論、交通工学理論を学ぶ。都市計画については土木工学、建築学、造園学を基礎とする近代都市計画から、経済学、社会学、心理学、環境学と連動する現代都市計画までを概観する。社会基盤計画については、計画代替案設計と代替案の事前及び事後評価のための数理的手法を概観する。交通工学理論については、都市基盤政策と関連する分析技法を修得する。	
		国際法総論	平時における国際法についての総論的な考察を通じて、国際社会において機能する国際法規範についての一通りの理解を試みるものである。具体的には、国際法の定義と歴史、国際法の主体、国際法の法源、国際法と国内法の関係、国家の基本的権利義務と管轄権、国家責任及び領域等について考察する。	
		開発経済論	経済開発についての幾つかの重要な論点が扱われる。第一に、産業開発にかんする企業論および産業論からの視角により、日本とその他の地域・諸国との比較分析が対象となる。第二に、とりわけ非集計的なマクロ的分析視角に沿って主要な理論を理解した上で、実証的な数量的分析を行う。第三に、経済開発、社会開発、環境保全等の開発経済論の主要課題を総合的に扱おうる政策論について、理論・実証的に考察する。	
		国際都市基盤プロジェクト論	アジア地域の大都市をケーススタディとして、道路、鉄道などの都市基盤を整備するプロジェクトにおいて、技術移転、地域とのつながり、地元技術者の育成にはじまり、供用後のモニタリング、民間活力の活用などの今日的な視点を中心に、プロジェクト推進のための基本および応用理論を学ぶ。	
地域 社会 系		国際支援政策論	国際連合、世界銀行、アジア開発銀行など、開発途上国の都市基盤整備などで中心的な役割を担っている国際組織、国際協力機構など各国の援助機関での、開発途上国支援の現状と課題、関連する経済学、社会学、土木工学、建築学での学術貢献の必要性と可能性を明らかにする。国際支援政策の基本的な考え方を修得する。	
		地域コミュニケーション論	開発途上国での地域政策や環境政策の推進において必要とされるコミュニケーションのあり方、各地域での実践例の評価、総括や、関連する分野での最新の分析手法、管理・運用手法について学ぶ。地域に入りこんで地域政策や環境政策を推進、展開する上での基本理論と実践的手法を修得する。	
		文化交流論	異文化交流が人間の文化形成において持つ重要性、異文化交流を捉える際の基本的な諸事項の検討を踏まえて、具体的に、ヨーロッパ文化の形成におけるヘレニズムとヘブライズムの交流、ヨーロッパ文化とイスラームとの関係、ヨーロッパ文化と近代日本文化との交流等を歴史的・思想的に取り上げて検討し、またそれらの検討を通じて、文化の創造に関して考察する。	
		途上地域発展論	概要:今日論じられる「都市化」は、いわゆる先進国に限定された現象ではない。アジアやアフリカなど「発展途上」とされる諸地域にも見られるグローバルな現象である。この講義では、特に東南アジアやアフリカを事例とし、多様な都市問題のなかでも特にマイグレーション（国内・国外）を取り上げ、社会学・文化人類学の視点から検討する。そして受講生各自の研究テーマとしてマイグレーションとの連関を社会科学的に分析し、理論と実践の関係について検討できるようにすることが目標である。 (オムニバス方式/全15回) (41小ヶ谷千穂、松本尚之/1回)はじめに (41小ヶ谷千穂/7回)東南アジアの事例から考察する (松本尚之/7回)アフリカの事例から考察する	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要					
（都市イノベーション学府博士課程前期都市地域社会専攻）					
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専 門 教 育 科 目	講 義 科 目	地 域 文 化 系	現代社会文化論A	<p>概要:本論は、アメリカ合衆国とフランスを歴史学的、社会学的、国際関係論的に比較検討し、現代社会文化の基本構造について考察する。両国の政体、制度、社会関係、文化構造についていくつかの個別テーマを取り上げる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (47松原宏之、44長谷川秀樹/3回)総合討議 (47松原宏之/6回)主としてアメリカ史の観点からの比較検討。 (44長谷川秀樹/6回)フランス語圏における社会学的、国際関係論的な側面を重視しつつ。</p>	オムニバス方式
			現代社会文化論B	<p>概要:前半では、EU誕生により脚光を浴びている「中央ヨーロッパ(中欧)」について深く掘り下げ、その多民族・多文化・多言語性がどのようにして培われ、また様々な文化にどのような影響を与えたかについて、過去の事例に言及しながらその現代的意義を探る。</p> <p>後半では、近年BRICsの一角として存在感を増しつつあるロシアの社会・文化を題材とし、その成立構造や理念的連関を捉える視点や方法について考察する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (大須賀史和、小宮正安/1回)はじめに (小宮正安/7回)中央ヨーロッパの事例から (大須賀史和/7回)ロシアの社会文化からの考察</p>	オムニバス方式
			アジア社会文化論	<p>概要:ガイダンス1回、担当教員(各7回)によるオムニバス形式。都市の近代化を含め、世界規模の経済、文化の融合は「国民国家」という枠を解体しているようにみられる。こうして「国民国家」を相対化するにあたり、近代国家および国民はいかにして形成されたのか、またこの形成において、儒学など日中両国の伝統的倫理観はいかなる位置を占めているのかを考察したい。これをきっかけにアジア諸国の社会文化の本質に接近し、アジア世界の未来像を構想したい。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (33白水紀子/7回)アジアとくに中国や台湾の社会・文化の問題を日本との比較を通して考える。具体的には、「近代国家建設と家族」のサブテーマのもとに「近代家族」の歴史とその問題を明らかにし、「近代」の意味を検討する。 (49千 臣/7回)比較の視座によって日中両国における儒学の流れおよびその特徴をとりあげたい。具体的に、先秦儒家、朱子学、ならびに陽明学が主張した倫理道德、天下(国家)観念を検討し、近代以降における日中両国の国民国家論を中心に講義をすすめたい。</p>	オムニバス方式
			アジア社会経済論	現代韓国を理解するための経済・社会・歴史についての基本的な知識を学び、その伝統社会からの連続性と断絶性を明らかにする。さらに、韓国の自己認識と日本の歴史意識がなぜ「歴史認識問題」として取り上げられるのか、その枠組みについて考察する。	
			グローバル都市論	<p>概要:グローバル化した世界の大都市に着目し、グローバル化のプロセスの解明、グローバル化した各都市での現状と政策課題について、都市、環境、地理、社会、経済などといった側面から取り上げて、地域共生を学ぶ上での基礎的で複眼的な素養を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(8)SRINIVAS Hari(ハリスリニバス)/7回)主としてアジア地域の都市のグローバル化に着目するとともに、地理、社会、経済といった側面からの議論を展開する。 (22)松行美帆子/8回)主として欧州を中心とした先進国都市のグローバル化に着目するとともに、都市、環境といった側面からの議論を展開する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（都市イノベーション学府博士課程前期都市地域社会専攻）			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	演習科目 特別演習	都市地域社会特別演習 IS	
		<p>地域都市社会分野の特定の課題について、指導教員のもとで演習を行う。ISでは、既往研究の整理と課題の具体化を行う。</p> <p>（樫龍哉）材料および構造物の非線形性を考慮した解析手法とその応用についての解析技法に関する課題</p> <p>（山田均）自然災害の一つである強風災害および様々な構造物や構造物の部分に発生する空力振動の諸問題に関する課題</p> <p>（谷和夫）地盤工学、応用地質学、地球工学、地盤環境工学に関する課題</p> <p>（中村文彦）都市計画、社会基盤計画学、交通工学に関する課題</p> <p>（勝地弘）都市および都市基盤構造物の地震、強風に対する防災システムに関する課題</p> <p>（佐々木淳）移流拡散問題及び水圏環境シミュレーションに関する課題</p> <p>（岡村敏之）交通計画における計画手法・評価手法に関する課題</p> <p>（早野公敏）動的な載荷条件に対応する地盤構造物の構造設計に関する課題</p> <p>（佐々木栄一）都市基盤を支える代表的な材料である鋼材の性質、溶接継手の特性、鋼構造物設計に関する課題</p> <p>（細田暁）コンクリート構造物の変状事例、メンテナンスおよび新設構造物の耐久性設計に関する課題</p> <p>（鈴木崇之）津波、高潮、海岸侵食、都市水害などに伴う沿岸域における自然災害への対策方法に関する課題</p> <p>（SRINIVAS Hari（ハリスリニバス））国際機関や援助機関の開発途上国支援に関する課題</p> <p>（松行美帆子）開発途上国の都市政策や環境政策における地域コミュニケーションに関する課題</p> <p>（須川英徳）韓国の社会、経済、文化に関する課題</p> <p>（小ヶ谷千穂）現代アジアにおける移住労働者問題に関する課題</p> <p>（松原宏之）現代アメリカにおける政治、文化、ジェンダー問題に関する課題</p> <p>（長谷川秀樹）現代フランスの社会問題、社会政策に関する課題</p> <p>（白水紀子）現代中国及び台湾における社会、経済問題、ジェンダー問題に関する課題</p> <p>（于臣）日本及び中国の経済倫理に関する課題</p>	
		都市地域社会特別演習 IF	
		<p>地域都市社会分野の特定の課題について、指導教員のもとで演習を行う。IFでは、基礎的な分析技法の習得と演習を行う。</p> <p>（樫龍哉）材料および構造物の非線形性を考慮した解析手法とその応用についての解析技法に関する課題</p> <p>（山田均）自然災害の一つである強風災害および様々な構造物や構造物の部分に発生する空力振動の諸問題に関する課題</p> <p>（谷和夫）地盤工学、応用地質学、地球工学、地盤環境工学に関する課題</p> <p>（中村文彦）都市計画、社会基盤計画学、交通工学に関する課題</p> <p>（勝地弘）都市および都市基盤構造物の地震、強風に対する防災システムに関する課題</p> <p>（佐々木淳）移流拡散問題及び水圏環境シミュレーションに関する課題</p> <p>（岡村敏之）交通計画における計画手法・評価手法に関する課題</p> <p>（早野公敏）動的な載荷条件に対応する地盤構造物の構造設計に関する課題</p> <p>（佐々木栄一）都市基盤を支える代表的な材料である鋼材の性質、溶接継手の特性、鋼構造物設計に関する課題</p> <p>（細田暁）コンクリート構造物の変状事例、メンテナンスおよび新設構造物の耐久性設計に関する課題</p> <p>（鈴木崇之）津波、高潮、海岸侵食、都市水害などに伴う沿岸域における自然災害への対策方法に関する課題</p> <p>（SRINIVAS Hari（ハリスリニバス））国際機関や援助機関の開発途上国支援に関する課題</p> <p>（松行美帆子）開発途上国の都市政策や環境政策における地域コミュニケーションに関する課題</p> <p>（須川英徳）韓国の社会、経済、文化に関する課題</p> <p>（小ヶ谷千穂）現代アジアにおける移住労働者問題に関する課題</p> <p>（松原宏之）現代アメリカにおける政治、文化、ジェンダー問題に関する課題</p> <p>（長谷川秀樹）現代フランスの社会問題、社会政策に関する課題</p> <p>（白水紀子）現代中国及び台湾における社会、経済問題、ジェンダー問題に関する課題</p> <p>（于臣）日本及び中国の経済倫理に関する課題</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（都市イノベーション学府博士課程前期都市地域社会専攻）			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	演習科目 特別演習	都市地域社会特別演習ⅡS	
		<p>地域都市社会分野の特定の課題について、指導教員のもとで演習を行う。ⅡSでは、実際のデータによる分析方法の習得と考察手法を取り上げる。</p> <p>（椿龍哉）材料および構造物の非線形性を考慮した解析手法とその応用についての解析技法に関する課題</p> <p>（山田均）自然災害の一つである強風災害および様々な構造物や構造物の部分に発生する空力振動の諸問題に関する課題</p> <p>（谷和夫）地盤工学、応用地質学、地球工学、地盤環境工学に関する課題</p> <p>（中村文彦）都市計画、社会基盤計画学、交通工学に関する課題</p> <p>（勝地弘）都市および都市基盤構造物の地震、強風に対する防災システムに関する課題</p> <p>（佐々木淳）移流拡散問題及び水圏環境シミュレーションに関する課題</p> <p>（岡村敏之）交通計画における計画手法・評価手法に関する課題</p> <p>（早野公敏）動的な載荷条件に対応する地盤構造物の構造設計に関する課題</p> <p>（佐々木栄一）都市基盤を支える代表的な材料である鋼材の性質、溶接継手の特性、鋼構造物設計に関する課題</p> <p>（細田暁）コンクリート構造物の変状事例、メンテナンスおよび新設構造物の耐久性設計に関する課題</p> <p>（鈴木崇之）津波、高潮、海岸侵食、都市水害などに伴う沿岸域における自然災害への対策方法に関する課題</p> <p>（SRINIVAS Hari（ハリスリニバス））国際機関や援助機関の開発途上国支援に関する課題</p> <p>（松行美帆子）開発途上国の都市政策や環境政策における地域コミュニケーションに関する課題</p> <p>（須川英徳）韓国の社会、経済、文化に関する課題</p> <p>（小ヶ谷千穂）現代アジアにおける移住労働者問題に関する課題</p> <p>（松原宏之）現代アメリカにおける政治、文化、ジェンダー問題に関する課題</p> <p>（長谷川秀樹）現代フランスの社会問題、社会政策に関する課題</p> <p>（白水紀子）現代中国及び台湾における社会、経済問題、ジェンダー問題に関する課題</p> <p>（于臣）日本及び中国の経済倫理に関する課題</p>	
		都市地域社会特別演習ⅡF	
		<p>地域都市社会分野の特定の課題について、指導教員のもとで演習を行う。ⅡFでは、これまでの3学期間の演習成果を踏まえて当該課題での研究成果の取りまとめ方について学ぶ。</p> <p>（椿龍哉）材料および構造物の非線形性を考慮した解析手法とその応用についての解析技法に関する課題</p> <p>（山田均）自然災害の一つである強風災害および様々な構造物や構造物の部分に発生する空力振動の諸問題に関する課題</p> <p>（谷和夫）地盤工学、応用地質学、地球工学、地盤環境工学に関する課題</p> <p>（中村文彦）都市計画、社会基盤計画学、交通工学に関する課題</p> <p>（勝地弘）都市および都市基盤構造物の地震、強風に対する防災システムに関する課題</p> <p>（佐々木淳）移流拡散問題及び水圏環境シミュレーションに関する課題</p> <p>（岡村敏之）交通計画における計画手法・評価手法に関する課題</p> <p>（早野公敏）動的な載荷条件に対応する地盤構造物の構造設計に関する課題</p> <p>（佐々木栄一）都市基盤を支える代表的な材料である鋼材の性質、溶接継手の特性、鋼構造物設計に関する課題</p> <p>（細田暁）コンクリート構造物の変状事例、メンテナンスおよび新設構造物の耐久性設計に関する課題</p> <p>（鈴木崇之）津波、高潮、海岸侵食、都市水害などに伴う沿岸域における自然災害への対策方法に関する課題</p> <p>（SRINIVAS Hari（ハリスリニバス））国際機関や援助機関の開発途上国支援に関する課題</p> <p>（松行美帆子）開発途上国の都市政策や環境政策における地域コミュニケーションに関する課題</p> <p>（須川英徳）韓国の社会、経済、文化に関する課題</p> <p>（小ヶ谷千穂）現代アジアにおける移住労働者問題に関する課題</p> <p>（松原宏之）現代アメリカにおける政治、文化、ジェンダー問題に関する課題</p> <p>（長谷川秀樹）現代フランスの社会問題、社会政策に関する課題</p> <p>（白水紀子）現代中国及び台湾における社会、経済問題、ジェンダー問題に関する課題</p> <p>（于臣）日本及び中国の経済倫理に関する課題</p>	

授業科目の概要				
（都市イノベーション学府博士課程後期都市イノベーション専攻）				
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
実践科目	都市イノベーション実践A（企業等実践研修）	企業等実践研修、教育研究研修、プロジェクト実践研修の3つを設け、各自の研究テーマを社会的ニーズの観点から複眼的に見つめるための学外実践活動に従事する。いずれか2つを修得することが修了の要件となる。都市イノベーション実践A（企業等実践研修）では、海外機関研修、企業内研修、シンクタンクでの調査研究、市場調査分析、実施企画設計業務などに係る学外実践活動をおこなう。		
	都市イノベーション実践B（教育研究研修）	企業等実践研修、教育研究研修、プロジェクト実践研修の3つを設け、各自の研究テーマを社会的ニーズの観点から複眼的に見つめるための学外実践活動に従事する。いずれか2つを修得することが修了の要件となる。都市イノベーション実践B（教育研究研修）では、地域実践活動、日本語教育支援、教育研究実践などに係る学外実践活動をおこなう。博士課程前期のスタジオ教育に参画する形での研修もおこなわれる。		
	都市イノベーション実践C（プロジェクト実践研修）	企業等実践研修、教育研究研修、プロジェクト実践研修の3つを設け、各自の研究テーマを社会的ニーズの観点から複眼的に見つめるための学外実践活動に従事する。いずれか2つを修得することが修了の要件となる。都市イノベーション実践C（プロジェクト実践研修）では、芸術文化創造活動、NPO・NGOでの諸活動、設計コンペ応募、社会起業実践などに係る学外実践活動をおこなう。博士課程前期のスタジオ教育に参画する形での研修もおこなわれる。		
特論科目	建築系	建築耐震設計特論	建築物の合理的な設計には、地震による動的挙動に対する正しい理解が必要である。ここでは、動的解析の応用理論まで建物の耐震設計を体系的に理解できるようにする。理解を助けるために必要に応じて実構造物を対象とした各種の実験や解析も行う。	
		建築耐震改修特論	近年の地震被害を契機として、既存建築物の耐震性能を評価し、必要な耐震改修を実施することの必要性が広く認識されるようになったことを踏まえ、主にコンクリート系建築物を対象にその耐震診断理論、耐震改修技術ならびに弾塑性解析手法を体系的に講義し、主要な解析理論と解析技術を習得することを目的とする。耐震診断理論では、その前提となるエネルギー一定則、架構の強度、変形の定式化、耐震改修技術では、一般的な補強工法に加え、制震・免震によるレトロフィット技術、弾塑性解析法では非線形領域における部材と復元力特性のモデル化等を講じる。これらの知見に基づき、将来の改修技術について提案を行う。	
		構造物弾塑性解析特論	ここでは、研究手法としての構造解析技術を身に付けることを目的とする。まず、建築構造物に関する社会的背景、構造計画・構造設計・施工の現状を分析し、見出した問題点に対して解決すべき課題を設定する。既往の構造物の解析手法を調査・分析し、これらの手法の課題に対する適用性を検証する。課題解決のために適切な解析手法及び解析条件を選択・考案し、解析を実施して解の妥当性を検証する。解析結果から論理的に結論を導き、現状の設計及び施工上の慣例に対して新たな提案を行う。	
		建築応用振動特論	近年、構造建築物や免震構造物に限らず、限界耐力計算法のように構造設計において建物の動的応答性状をより正確に考察する必要性が増してきたことを踏まえて、地震時の建物の動的挙動を推察するために必要な構造物の動的解析手法と一般的な建物の振動性状を体系的に講義することにより、主要な構造解析理論と建物の動的挙動に関する知識を習得し、その知識を応用して個別の課題に対応できる能力を身につけることを目的とする。	
		大空間建築構造特論	空間構造は、ドームや体育館、アトリウム屋根や壁のように内部が広く、開放的な空間を構成するための構造システムおよび構造物のことをさす。柱や壁などの支点間距離（スパン）が大きい空間を効率的に構成するためには軽量化・高強度化が不可欠である。空間構造の設計者は、自由で開放的かつ気持ちの良い空間を求めて、日々、新しいアイデアやアプローチに挑戦した作品を提案している。これら事例のコンセプト、新しい提案内容、プロセス、技術的解決手段、施工方法について学ぶことは、空間構造を理解するうえで有意義である。この授業では、新しい大空間構造の構造システムや工法の提案、実験やシミュレーションによる検証を行い、空間構造の理解を深めることを目的とする。	
		建築温熱環境特論	建築環境工学における建築の意義は、ヒトにとって快適な屋内空間を創造するための屋外との適切な遮断と開放を行うためのシェルター機能であるが、ヒトにとっての快適環境を考えるうえでヒトの生理学的理解が重要である。そこで本特論では、快適な温熱環境の創造と評価のために必要となる温熱生理学の基礎及びヒトの体温調節モデルと温熱環境評価指標について論じる。	

授業科目の概要

（都市イノベーション学府博士課程後期都市イノベーション専攻）

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特論科目	建築系 地域・都市環境管理特論	建築、および地域、都市といった空間は、人間の生活、活動にとって安全、快適、健康的で、便利であるとともに、生態系などの自然環境にとっても負荷の小さいものでなければ持続可能性は実現できない。本特論では、このような視点に立って、建築環境工学（建築計画原論）的アプローチ、都市計画的アプローチに加えて、特に自然環境の特性を活かすアプローチ、生態学的アプローチで建築、およびその外部空間も含めた地域や都市の環境管理の技術、手法について、これまでの計画実施事例、研究事例から学び、実現のための課題を抽出し課題解決の方法について議論する。	
	地域省エネルギー計画特論	省エネルギーの手順として、「負荷を減らす」「消費量を減らす」「環境負荷の少ないエネルギーを使用する」が挙げられる。本演習では、地域スケールでの「負荷を減らす」ための技術や計画、「エネルギー消費を減らす」ための技術や計画、「環境負荷の少ないエネルギーを使用する」ための技術や計画について、これまでの計画実施事例、研究事例から学び、実現のための課題を抽出し課題解決の方法について議論する。	
	環境行動特論	人間の行動と環境との相互関係を解明する環境行動研究について、理論を建築計画の研究に展開する方法について議論を深める。様々な状況における研究事例（高齢者住宅、福祉施設、博物館などにおける利用者の行動、エコミュージアムなど地域における環境保全まちづくりなどの研究）について精査し、実際のフィールドにおける研究への適用について議論する。	
	持続型集住特論	持続可能な住居集合とそのための計画技術のあり方について理解を深める。20世紀の近代的建築技術を駆使して計画された住宅ストックの多くが老朽化や機能的陳腐化により見直しを迫られており、都市的・地域的視点を持ちながら時代に合った姿に持続的に更新していくことが求められている。講義では前半にドイツ・フランス等の最新事例を紹介し現代的課題について理解を深めた上で、後半ではテーマ毎にグループに分かれ、文献調査、実地調査、グループディスカッションをふまえ、これからの持続可能な住居集合のあり方について考えをまとめ発表する。博士課程後期では特に、各自の研究課題と関連づけた現実的な提案を目指す。	
	日本建築保存修復特論	日本の伝統的木造建築における保存修復理論および実践に焦点をあてて講義する。特に中世の日本建築は、古代以来の建築の伝統を受け継ぎ我が国独自の熟成をなした和様を基盤とし、大仏様・禅宗様の新様式の導入を得て建築意匠・構造技法の面で大きな進歩を見せた。その意匠・技法の本質を、既存遺構の保存修復成果である保存修理工事報告書の高度かつ膨大な資料を読み解くことにより把握する。講義の終盤では、横浜三溪園内に移築復原された中世仏堂「旧燈明寺本堂」において、その建築技法や修復実態について演習を行い、理解を深める。	
	市街地創造特論	都市を構成する主要要素である市街地を主な対象として、これからめざすべき都市像や、そこに至るまでのプロセス、制度、主体、財源、マネジメント手法について、内外の優れた事例を深く分析しつつ講義する。とりわけ人口減少や高齢化、地方の衰退等の課題を多く抱えたわが国の都市再生のあり方を念頭に、より高次の方法論をめざして議論を進める。	
	建築デザイン特論	横浜という都市を対象とする未来都市の構想、地域社会を形成する環境単位の都市を構成する環境単位の計画、都市・環境の単位となる新しい建築の設計。	
	都市デザイン特論	要素が複雑な都市空間を、創造し、再生するために発展した「都市デザイン」の歴史と現状を踏まえた上で、これを手法化してゆくにはどうすればいいかを議論する。特に、人口減少時代、環境問題、経済問題など大きな時代の変化の中で、必要とされる都市空間像を実社会に反映するため議論し、実際の取組み事例等も学びながら、実践的解法を探り、提案する。	
	都市基盤系	都市基盤安全設計特論	空間環境を維持するためには、空間を構成する可能性の議論だけでなく、動的問題への対処、自然災害への対処など、多方面からの最適化が求められている。特に柔軟構造物では、振動力学の基本思想をふまえ、長大構造物では耐風工学を十分な理解ふまえた詳細、かつ正確な対応が欠かせない。ここでは、下記の内容を中心に実務での実践的な例を文献に見ながら動的問題を中心に据えた設計管理問題について教育研究する。
都市基盤環境相関特論		都市基盤を構成する構造物は周辺環境から短期・長期の影響を受けるとともに、構造物の構築を通して周辺環境に対して短期・長期の影響を及ぼす。これらの構造物と周辺環境の相互の関係に関する諸問題の機構について学ぶ。主な項目は、地震等の短期的荷重に対する構造物の抵抗性向上、持続荷重の作用下での時間依存変形挙動の予測、種々の長期的劣化要因に対する構造物の長寿命化、構造物への環境負荷低減型材料の適用、周辺環境への負荷を低減する構造物構築の工法等である。これらの項目に含まれる問題の機構の学習を通し、都市基盤を扱う分野に進む研究者や技術者の構造物と環境の関係に関する高度な知識と問題解決能力を涵養する。	
耐震耐久設計特論		都市基盤を支える構造物の中心である鉄筋コンクリート構造の非線形有限要素解析に用いられる材料構成則を学ぶ。数値解析の精度は、材料の応力-ひずみ関係が支配するが、世界的に最も精度が高く適用範囲の広い構成則を、その根拠となる実験結果と合わせて学ぶ。	

授業科目の概要			
（都市イノベーション学府博士課程後期都市イノベーション専攻）			
科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特論科目	都市基盤系 地盤設計特論	多数の経験データに基づく経験則の利用が容易でない場合、地盤工学では、理論的解析にもとづく地盤の変形や破壊の精度のよいシミュレーションが欠かせないものになりつつある。本講義では地盤の力学挙動を理論立てる考え方とその手法を対象に、以下の事項について学ぶ。1. 土の応力～ひずみ関係の基本、2. 地盤の破壊解析（破壊基準、上・下界法、極限つりあい法、すべり線法、境界値問題の理論と実際）、3. 土要素の挙動とモデル化（応力経路、弾性特性、弾塑性モデル、動的载荷に対する挙動）。	
	都市防災システム特論	都市基盤構造物の大型化に伴い、風や地震の影響度も大きくなり、防災の観点から、風や地震に対する構造物の応答評価が不可欠となる。特に自然外力は、時間的、空間的に不規則であるため、応答解析に際しては確率統計的な取扱いが必要となる。また、空気力の場合には、構造物の応答による自動空気力や空間相関を考慮する必要がある、特別な扱いを必要とする。授業では、都市基盤構造物の防災システムに焦点を当て、都市基盤構造物の不規則な自然外力に対する応答を予測・評価するための時刻歴応答解析、スペクトル解析、非線形振動解析について学ぶとともに、振動応答を制御するための振動制御理論についても学ぶ。	
	都市基盤構造材料特論	鋼構造物は都市基盤を支える代表的な構造であるが、その安全性を確保するためには、設計方法、使用環境モニタリング、部材強度とその劣化予測などが重要な課題となる。本講義では、鋼構造物における劣化・破壊現象を理解し、それに対する対応策の提示のため、鋼材および鋼部材の要求特性、シミュレーション方法とその精度等について事例を多く示しながら、調査・プレゼンテーション・ディスカッションを通じて、安全性の管理について議論する。さらにそれらの議論をもとに、新しい構造の提案およびその構造の安全性確保のためのフィードバックについて論じる。	
	水圏環境特論	湖沼、沿岸域における物理場の数値シミュレーション技術を学び、水圏における物質輸送拡散等の環境プロセスへの理解を深める。まず、差分法による移流拡散方程式の解法を学び、乱流モデルの基礎を含む、流動場の数値シミュレーション技法を学ぶ。次に、流動場に関するオープンソースの数値モデルを採用し、前処理、後処理を含むシミュレーション方法と、シミュレーション結果の解釈を学ぶことで、水圏環境プロセスの理解を深める。さらに実務における数値モデルの役割、限界、および今後必要となる技術開発について理解を深める。	
	水圏防災特論	沿岸域における自然災害の様相は、地球規模における自然および社会環境の急激な変化に伴い複雑化していることから、その地域の特性、都市成熟度などを踏まえた上での津波や高潮、海岸侵食を始めとした沿岸域における自然災害の学理を理解する。まず、津波や高潮などの発生原理や波の特性について理解する。さらに、それらの数値モデル化についても学ぶ。加えて、具体的な国内外の事例を通して、それぞれの地域に適した対策方法を学ぶことで沿岸域防災（減災）についての理解を深める。	
	地圏特論	地盤工学、応用地質学、地球工学、地盤環境工学に関わる最新の研究論文ないしState-of-the-arts文献を取り上げ、その内容について講義する。対象とする技術内容に関する理解を深めると共に、課題の把握、研究アイデアの創出、研究手法の選択、研究作業の遂行、結果の分析、論文の執筆などの研究者ないし技術者としても必要な業務遂行能力も修得する。	
	交通計画特論	都市交通計画のために必要な理論と分析手法について講義を行う。具体的には、交通流の配分理論とシミュレーション技法、選択行動を記述するためのランダム効用理論に基づくモデル、意識構造を記述するための因果構造モデルを対象とする。講義では、予習文献に基づいて理論とその適用について事例を交えて解説し、さらに演習と論文輪読を交えることで理解を深める。これらにより、データの取得から解析に到る一連のプロセスを習得し、自身の研究に反映できることを目指す。	
都市文化系	都市基盤政策特論	都市交通経済学の学問フレームをベースに、都市基盤にかかる需要分析、システム性能分析、プライシング分析、ファイナンス分析、制度設計論などを学ぶ。関連分野の先進的研究事例をベースとして、古典的な理論にも言及して、都市基盤政策にかかる高度な学術的課題を取り上げる。都市基盤政策にかかる実践的研究課題の枠組み設定や高度な分析考察能力の修得をめざす。	
	都市音響特論	現代都市における音響の問題を総合的に解き明かし、その可能性と問題点について考究する。音楽宇宙論的な立場から巨大都市の音響の新たな可能性を示し、またテクノロジーと調和させつつ都市の生気に必要な遊戯性豊かな音響を見出すなど、論文執筆の可能性を探り、さらに都市環境での音楽や音響に関する学会論文、博士論文等の先行研究を紹介分析して、都市における現代の音響関連諸問題の所在を明らかにし、博士前期課程での学習研究の成果を踏まえ、これらを総合しつつ、解決の方策を探る。	

授業科目の概要

（都市イノベーション学府博士課程後期都市イノベーション専攻）

科目	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特論科目	都市文化系 アーバンアート特論	現代都市におけるアートの問題を総合的に解き明かし、その可能性と問題点について考究する。都市には現代アート、映画、演劇、パフォーマンス、音楽などさまざまな文化・芸術が渦巻いている。また、それらの活動が展開されるフェスティバル、コンサート、イベントなどが、美術館やコンサートホールばかりではなく、街のさまざまな場所で展開されている。これらの状況を展望し、具体的な現場に即して理論的に考察していく。	
	映像芸術特論	現代都市における映像の問題を総合的に解き明かし、その可能性と問題点について考究する。とりわけ現代における映画作品と映画論の主要な可能性を作品分析を中心に考察し、その上に、都市と映画の織りなす問題体系を明らかにする。	
地域社会系	国際支援政策特論	国際機関や援助機関での国際支援活動の考え方を各機関発行報告書をもとに、特に地球環境宣言以降の変遷について理論的な考察を行い、関連各分野での同時期の議論動向を踏まえ、支援政策の本質的な考え方及び具体的な取り組み方法について、より深い理解を修得する。	
	地域コミュニケーション特論	開発途上国での地域政策や環境政策の推進において必要とされるコミュニケーションの基本理論と基本技術、それらを土台とした応用技術の体得をめざす。戦略的環境アセスメント技術をはじめとして、地域での関連各主体間のコミュニケーション技術を土台とした実践例について、理論的な側面からの考察を深め、地域基盤整備の国際展開の高度な研究に必要なものの考え方を身につける。	
地域社会系	アジア社会文化特論	アジアとくに中国や台湾の社会・文化の問題を「家父長制と近代化」に焦点をあてて考察し、日本との比較を通して「アジアの近代」を考える。前半は、日本植民地下にあった戦前の台湾社会および日中戦争時の中国を対象に、関連する歴史資料や日・中・台の文学作品を読み解き、当時の台湾・中国・日本知識人たちの近代意識と家族観を検討する。後半は、戦後の台湾・中国社会において、急激な近代化の過程で生じている諸問題を検討し、その特色や日本との共通点を明らかにする。またこの間に生まれてきた新たな「家族観」や「郷土意識」に注目し、その内容を検討する。	
	アジア社会経済特論	現代韓国あるいは韓国伝統社会を理解するための経済・社会・歴史について自ら構図を描きうるまでの知識と必要な技法、リサーチの手法を指導する。社会経済史の立場から朝鮮史がどのように描きうるのかを最新の研究成果も交えて考える。また、参加者自らが他人に説明可能な韓国史像をえがけるようになることが目的となる。	
科目		講義等の内容	備考
特別研究		建築、都市文化、都市基盤、共生社会等、都市に関わる研究をサステナビリティ（持続可能性）とクリエイティビティ（創造性）という観点から総合・集約させ、都市の中に多様なイノベーションを生み出し、都市の自律的で継続的な発展をめざす都市イノベーション領域に関して、研究の実践、指導を行い、博士（工学または学術）論文について論文指導を行なう。	
	建築系	（1 田川泰久） 鋼構造物および合成構造物について実験或いは解析的な手法を用いて、建築耐震設計の現状における課題について問題解決すべく研究指導を行なう。	
		（2 田才 晃） コンクリート系建築物を対象とし、構造実験と構造解析の手法を用いてその耐震性向上および長寿命化のための諸課題について研究指導を行なう。	
		（3 松本由香） 建築構造物、特に鋼構造物の限界状態の解明を研究課題とし、構造性能の決定要因の解明、評価及び設計規範に関する論文指導を行なう。 （4 楠 浩一） 建築構造物の常時および地震時等の外乱時における振動特性を考慮して、建築構造物の耐震性能を評価・向上する方法に関する論文指導を行う。	

授業科目の概要 (都市イノベーション学府博士課程後期都市イノベーション専攻)			
科目		講義等の内容	備考
特別研究	建築系	(5 河端昌也) 高次の非線形構造解析、材料実験および架構実験による検証の手法を用いて、膜構造および空間構造の構造デザインの課題について研究指導を行なう。	
		(6 佐土原 聡、吉田 聡) 実測・実験・調査をととして収集したデータの解析により、快適な温熱環境の合理的な創造と評価に関する課題について研究指導を行なう。	
		(7 佐土原聡) 環境面からの持続可能な地域・都市づくりを研究課題とし、自然環境や生態系と調和した地域の計画技術および評価技術に関する研究指導を行う。	
		(8 吉田 聡) 低炭素まちづくりを研究課題とし、低炭素なまちを実現するための地域のエネルギーシステムの計画技術および評価技術に関する研究指導を行う。	
		(9 大原一興) 建築・都市環境と人間行動・社会との関係性の視点から、実態調査をもとにした分析考察をし、建築計画学の立場から施設や居住環境のあり方に関する研究指導をおこなう。	
		(10 藤岡泰寛) 実態調査（フィールドワーク）をもとにした分析・考察から、建築計画・設計のあり方や豊かな地域社会づくりに必要な計画理念・目標像に関する研究指導を行う。	
		(11 大野 敏) 文化財建造物修復の経験を生かし、建築史における様式研究と保存修復実践の双方をバランスさせた調査・研究指導を行う。	
		(12 高見沢実) 都市および市街地のありかたに対する計画・事業・マネジメント・主体・制度等を研究課題とし、都市計画の立場からそれらの分析・評価を行なう方法論の構築等に関して研究指導を行なう。	
		(13 北山 恒) 横浜という都市を対象とする未来都市の構想、地域社会を形成する環境単位の都市を構成する環境単位の計画、都市・環境の単位となる新しい建築の設計に関する研究指導を行う。	
		(14 野原 卓) 多様な主体や都市空間を統合的にデザインする手法である「都市デザイン」手法を取り上げ、既成市街地や都市空間における都市デザインを用いた再生論に関する研究指導を行う。	
	都市基盤系	(15 山田 均) 社会基盤施設が遭遇する自然災害について、地域的な特性、施設の諸特性を考慮した設計法、対象法、維持管理法について、基礎理念から、実践のプロジェクト実施に必要な応用に至るセンタ的問題について、研究指導を行う。	
		(16 樺 龍哉) 周辺環境からの短期的および長期的な影響因子と構造物の関係を対象として、それらの影響因子による材料や構造物の非線形挙動、および時間依存変形挙動に関する課題について、論文指導を行う。	
		(17 細田 暁) コンクリート構造物の耐久性、使用性、安全性、メンテナンス、ひび割れ制御を研究課題とし、良質なコンクリート構造物を社会に提供するための知見の創出、規準類へのフィードバック等についての研究指導を行う。	
		(18 早野 公敏) 耐震性、耐久性、施工性、環境負荷低減などの観点から要求される土質材料や地盤構造物の諸問題を解決するために、土質実験や地盤解析による系統的手法を用いて、地盤構造・地盤材料の設計課題について研究指導を行う。	
		(19 勝地 弘) 長大橋梁、剛性の低い構造物に発生する空力振動の発生メカニズム、制御方法を研究課題とし、数値シミュレーション、風洞実験等による研究手法によって研究指導を行う。	
		(20 佐々木栄一) 鋼構造物における大規模地震時破壊の原因究明、メンテナンス手法を研究課題とし、特に地震時の座屈や脆性破壊の防止、腐食損傷劣化の影響等に関する論文指導を行なう。	

授業科目の概要 （都市イノベーション学府博士課程後期都市イノベーション専攻）		
科目	講義等の内容	備考
特別研究	都市基盤系 （21 佐々木 淳） 計算機シミュレーション、現地調査、水理実験、資料解析といった手法を採用し、沿岸域における高潮、津波、高波、海岸侵食、および閉鎖性水域における水環境問題を含む、水圏の防災・環境に関わる課題について、研究指導を行う。	
	（22 鈴木 崇之） 土木工学、海岸工学等の成熟した知識に裏打ちされた高度な技術性・科学性に、人間の多様性を前提にしつつ沿岸海岸域の持続的発展を可能にする、より高いレベルでの知識を融合させた研究の実践、指導を行い、博士（工学または学術）論文について論文指導を行なう。	
	（23 谷 和夫） 構造物基礎の安定、廃棄物の処分、地盤防災、土壌汚染、地下空間の利活用などの地盤工学分野の課題について、岩盤工学、応用地質学、地盤環境工学における先端技術の研究・開発に関する論文指導を行う。	
	（24 岡村 敏之） 都市交通計画に関する様々な諸問題に対して、課題の設定から適切なデータ取得方法と分析手法の決定、解析・評価までの一連のプロセスについて研究指導を行う。	
	（25 中村 文彦） 都市交通と都市計画の連携分野での政策課題について、地球環境、社会的公平性、経済的効率性の均衡を枠組みとして、科学的にアプローチする研究の実践、指導を行い、工学または学術論文について論文指導を行う。	
	都市文化系 （26 茂木一衛） 現代の都市における音響の問題を、音楽学の手法を用いて、都市における音響の課題について研究指導を行なう。博士論文の中核となるであろう詳細な音響作品分析（アナリゼ）、理論と実践を統合し連携させての記述方法、伝統（従来からの作曲作品、演奏）と革新（新テクノロジーを駆使した電子音響、ディスクやネットワークでの再生音響）の都市文化の中での調和等、都市での音楽音響を考える上での主要課題について、当該博士論文のテーマに即して研究指導補助を行なう。	
	（27 室井 尚） 現代の都市におけるアートの問題を現代的な理論を応用する手法を用いて、現代アートの課題について研究指導を行なう。	
	（28 梅本洋一） 現代の都市における表象芸術の問題を実践的な手法を用いて、表象芸術の課題について研究指導を行なう。	
	地域社会系 （29 SRINIVAS Hari(ハリスリニバス)） インフォーマルセクターをはじめとする開発途上国の大都市にみられる生活上の諸問題について、国際支援政策の立場から、学際的なアプローチで研究指導する。	
	（30 松行 美帆子） アジアを中心とする開発途上国の都市・地域問題、環境問題や開発援助の課題について、政策科学・都市計画・まちづくりの視点から研究指導を行う。	
	（31 白水 紀子） 現代中国・台湾における社会・文化の問題を、ジェンダーやセクシュアリティに関する課題を通して考察するために、資料分析・調査の方法・論文作成などについて研究指導を行う。	
	（32 須川 英徳） 現代韓国社会を理解するために必要な朝鮮半島における伝統文化、伝統社会について理解を深め、自ら考察する分析能力を養うことを課題として研究指導を行う。	